

# 高槻市の地球温暖化対策に関する市民意識調査結果

## 目次

1.	目的および概要 .....	2
1.1.	調査の目的 .....	2
1.2.	調査の概要 .....	2
1.3.	調査項目 .....	2
2.	調査結果 .....	3
2.1.	調査結果の総括.....	3
2.2.	単純集計結果（市民） .....	6
2.2.1.	属性 .....	6
2.2.2.	地球温暖化問題への取り組み状況.....	12
2.2.3.	電力の購入状況.....	29
2.2.4.	自動車の使い方.....	30
2.2.5.	地球温暖化対策のあり方に対する意識.....	31
2.2.6.	自由意見.....	35
	（参考）地球温暖化問題の取り組みに対する現在の自己評価と今後の姿勢の関係..	40
	（参考）その他クロス集計結果.....	41

## 1. 目的および概要

### 1.1. 調査の目的

市民および事業者における地球温暖化に対する意識、日常的な省エネ行動等の実践状況、実践意欲、実践にあたってのニーズ等を把握し、高槻市における地球温暖化対策の課題や、今後の施策の方向性に反映することを目的とする。

### 1.2. 調査の概要

調査範囲	高槻市全域		
調査対象者と抽出方法	市民	2,000人	住民基本台帳から20歳以上の市民を年代別均等割で無作為抽出
	事業所	300事業所	総務省の事業所母集団データベースから事業所を無作為抽出 + 特定排出事業者
調査方法	郵送配布・郵送回収		
調査時期	市民	2020年3月13日～30日（約2週間）	
	事業所	未定	

### 1.3. 調査項目

#### 〔1〕市民

属性	地域、年齢、世帯人数、住宅の種類・構造・建築時期
地球温暖化問題への取り組み状況	地球温暖化防止に関する日常的な取り組み
	地球温暖化防止に役立つ再生可能エネルギー機器・省エネルギー設備等の導入状況
	省エネルギー診断の受診状況
	地球温暖化問題への取り組みの自己評価
電力の購入について	電力自由化に伴う購入先の変更状況
	電力の購入先を選択するときに重視すること
自動車の使い方について	世帯で利用する主な自動車の種類および年間走行距離
地球温暖化対策のあり方について	地球温暖化の影響で、不安に感じる事
	地球温暖化対策に対する考え方
	今後、地球温暖化問題に対して、どの程度熱心に取り組みたいか
	地球温暖化対策や、地球温暖化に伴う被害を軽減するために、自らが取り組むべき事項について、特に必要だと思うもの
自由意見	地球温暖化対策のための行動を実践しにくい原因
	省エネアイデアや、地球温暖化対策を推進していく上で課題と感ずること

## 2. 調査結果

### 2.1. 調査結果の総括

#### 〔1〕 配布回収数

対象者	配布数（有効配布数）	回収数	回収率
市民	2,000（1,990）	699	699/1,990=35.1%

#### 〔2〕 回答者の属性

- ◆ 地域については、実際の地域別人口と比較して、概ね同じ割合となっています。
- ◆ 年齢については、60歳代以上が46.4%と半数近くを占めています。
- ◆ 世帯人数については、1人または2人の少人数世帯が47.5%と半数近くを占めています。
- ◆ 住宅については、持ち家の一戸建てが57.8%と過半数を占めています。また、木造住宅が47.2%と半数近くを占めています。
- ◆ 住宅の建築時期については、築30年以上経過している住宅が35.9%となっています。

#### 〔3〕 全般的な傾向

- ◆ 平成22年実施の市民アンケート調査結果と比較すると、省CO<sub>2</sub>行動などの日々の取組によるソフト対策、再エネ・省エネ機器の導入などのハード対策ともに全体的に進んでおり、多少の不自由や負担があっても実践したいという取り組み意欲も高まっています。
- ◆ 全国的な数値と比較すると、省CO<sub>2</sub>行動などの日々の取組によるソフト対策が進んでいます。
- ◆ 現在は地球温暖化問題に対して熱心に取り組んでいない人でも、その多くが今よりも熱心に取り組みたいとする意欲があります。

#### 〔4〕 地球温暖化問題への取り組み状況について

- ◆ 日常的な取り組みについては、省資源に関するもので習慣的に実行している割合が高い一方、冷暖房の温度設定や窓の断熱（遮光カーテンやグリーンカーテンなど）などで実行している割合が低くなっています。

年齢との関係を見ると、特に給湯や電気製品に関する項目では、年齢が上がるにつれて省エネ行動を実行している割合が高くなる傾向にあります。

住宅の種類との関係を見ると、省エネ効果の高い電気製品（エアコン、照明等が推測される）の選択や窓の断熱は、持ち家に居住している市民が実行している割合が高くなる傾向にあります。

地球温暖化問題の取り組み状況の自己評価が高い人と低い人とでは、習慣的に実行している割合に約20～30%程度の差があります。特に電気・ガスの利用明細の確認については51.6%の差があります。

平成22年実施の市民アンケート調査結果と比較すると、全体的に取り組む意識の向上がみられます。

全国的な数値と比較しても、取り組み意識は高い傾向にあります。

- ◆ 省エネ・再エネ機器等の導入状況については、LED や人感センサーなどの照明器具のほか、住宅の断熱化、ヒートポンプ給湯器において導入が進んでおり、全国的な傾向と同様の傾向となっています。

平成 22 年実施の市民アンケート調査結果と比較すると、特にヒートポンプ給湯器や住宅の断熱化の導入率が大きく増加しています。

全般的に、安価になれば導入したいとする回答が 2~3 割程度あり、これらが潜在的な購入意欲層と考えられます。特にエコカーについてはタイミングが合えば導入したいとする割合も高く、購入意欲が高いといえます。

各種機器の導入率は、持ち家や建築時期の浅い住宅で高くなる傾向があります。また、導入意欲は、築浅または築年数 30 年~40 年程度の住宅で高い傾向があります。

- ◆ 省エネ診断の受診率は 4.4%と低いものの、41.1%は省エネ診断に前向きな意欲を示しています。

## 〔5〕 電力の購入について

- ◆ 電力の購入について、31.0%が購入先を関西電力株式会社から切り替えており、全国の平成 29 年時点と比較すると経年とともに切り替えが進んでいると考えられます。

電力の購入先を選択する際は、価格が安価であることや購入先の会社の規模・安定性を重視する割合が高く、環境に配慮した電力であることを重要視する市民の割合は 27.9%となっています。

## 〔6〕 自動車の使い方について

- ◆ ハイブリッド車を所有している割合は 16.5%となっています。
- ◆ 1 日あたりの走行距離は、平均約 18.5km/日で、内訳は 8~14km/日程度がもっとも多く 34.2%、27 km/日以上走行する人が 28.7%となっています。これは、市内または隣接市を往復する程度の距離にあたり、マイカー利用の多くが市内移動を含め近隣市等への所用によるものと考えられます。

## 〔7〕 地球温暖化対策のあり方について

- ◆ 地球温暖化の影響で不安に感じることにについて、89.4%が「異常気象による豪雨災害や水不足」に不安を感じると回答しています。

平成 22 年実施の市民アンケート調査結果と比較すると、異常気象による災害に加えて、健康への影響に関する不安が高まっています。

- ◆ 温暖化対策に対する考え方について、42.5%が多少の不自由や負担があっても実践したいという意識を持っており、平成 22 年実施の市民アンケート調査結果(21.4%)と比較すると、大きく向上しています。

- ◆ 地球温暖化問題に対する取組意欲について、32.6%が「熱心に取り組みたい」、62.6%が「ふつうに取り組みたい」と回答しています。現状において「熱心でない」と自己評価している層においても、8 割以上が今よりも前向きに取り組みたいとい

う意欲を持っています。

- ◆ 自らが取り組むべき事項としては、「家庭内でのこまめな節電や省エネ行動」や「リサイクルなど資源の有効利用」など、個人でできる範囲で、取り組みへのハードルが低いものが割合が高くなっています。また、災害への備えなどの適応策についても高い関心が見られます。

緑化活動や環境イベントなどの参加型の取り組みについては全体的な割合は低くなっていますが、20代の意識は他の年代よりも高くなっています。

- ◆ 実践しにくい原因としては、「再生可能エネルギー導入や省エネルギー機器導入のためにお金がかかる」の割合が63.1%と最も高いほか、取り組み方がわからないとする割合が36.1%となっています。

取り組み方がわからないとする割合は、30代での割合が高いほか、全体的に年齢が上がるほど高くなる傾向があります。また、地球温暖化問題に対する自己評価が低い人で高くなっています。

「危機感がなく自分には関係ないと思う」の割合は、20代と地球温暖化問題に対する自己評価が低い人で特に高くなっています。

平成22年実施の市民アンケート調査結果と比較すると、危機感がないとする割合は減少しており、機器導入費用の高さについての割合は増加していることから、主体的に取り組もうとする意識に転換した上で、現実的な問題に直面している状況があると考えられます。

## 2.2. 単純集計結果（市民）

### 2.2.1. 属性

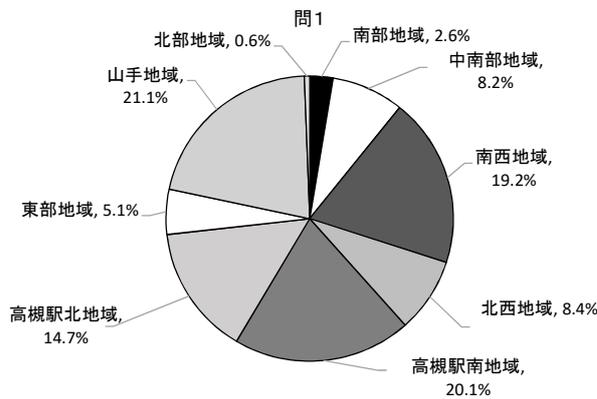
**問1. あなたのお住まいの地域はどこですか。町名をお答えください。**

地域について、河川・道路等をもとに、以下の9地域に区分しました。

山手地域が最も高く 21.1%、次いで高槻駅南地域が 20.1%となっています。

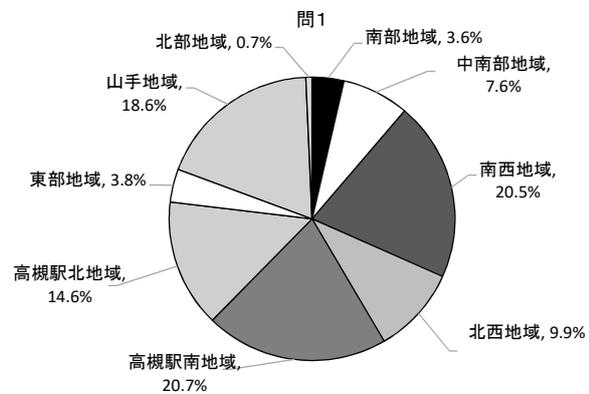
実際の高槻市の地域別人口と比較すると、概ね同じ割合となっています。

地域名	回答数	割合
南部地域	18	2.6
中南部地域	56	8.2
南西地域	132	19.2
北西地域	58	8.4
高槻駅南地域	138	20.1
高槻駅北地域	101	14.7
東部地域	35	5.1
山手地域 (新名神以南～名神以北)	145	21.1
北部地域	4	0.6
計	687	100.0



〈高槻市人口(住民基本台帳,令和2年3月末)〉

地域名	人数	割合
南部地域	12,721	3.6
中南部地域	27,033	7.6
南西地域	72,594	20.5
北西地域	35,169	9.9
高槻駅南地域	73,488	20.7
高槻駅北地域	51,866	14.6
東部地域	13,342	3.8
山手地域 (新名神以南～名神以北)	66,000	18.6
北部地域	2,534	0.7
計	354,747	100.0

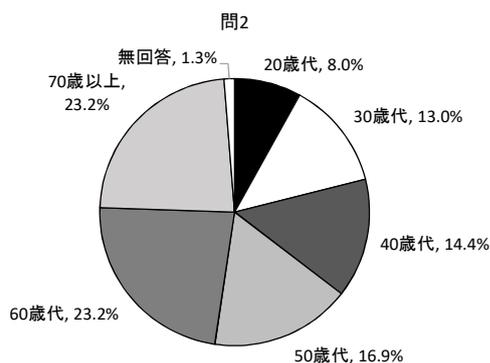


## 問2. あなたの年齢はいくつですか。

年齢について、「60歳代」、「70歳以上」が最も高く23.2%、次いで「50歳代」が16.9%、「40歳代」が14.4%となっています。

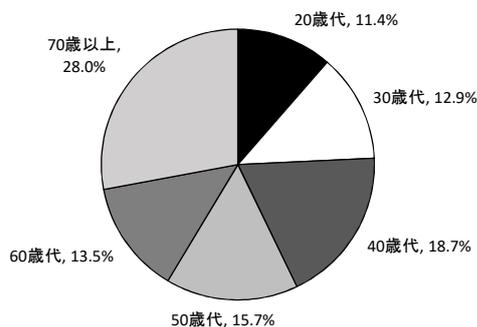
実際の高槻市の年齢別構成比と比較すると、割合が少ないのは20歳代、40歳代、70歳以上で、それぞれ3.4%、4.3%、4.8%ほど少なくなっています。割合が多いのは60歳代で、9.7%多くなっています。30歳代、50歳代については、ほぼ同じ割合となっています。

選択肢	回答数	割合
20歳代	56	8.0
30歳代	91	13.0
40歳代	101	14.4
50歳代	118	16.9
60歳代	162	23.2
70歳以上	162	23.2
無回答・無効	9	1.3
計	699	100.0



## 〈高槻市人口(住民基本台帳,令和2年3月末)〉

選択肢	人口	割合
20歳代	33,011	11.4
30歳代	37,431	12.9
40歳代	54,196	18.7
50歳代	45,546	15.7
60歳代	39,153	13.5
70歳以上	81,211	28.0
計	290,548	100.0

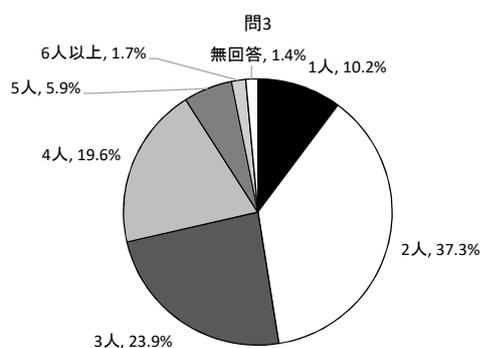


### 問3. 何人でお住まいですか。

世帯人数について、単身世帯が10.2%、2人世帯が37.3%、3～4人世帯が43.5%、5人以上世帯が7.6%となっています。

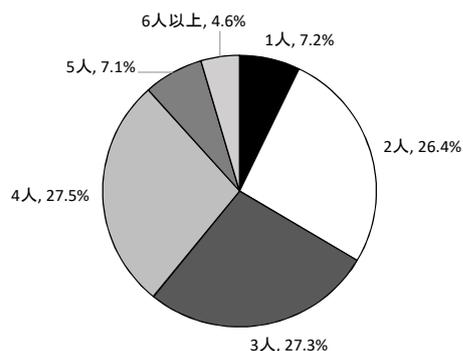
実際の高槻市の世帯人数と比較すると、特に単身世帯の回答が少なくなっています。

選択肢	回答数	割合
1人	71	10.2
2人	261	37.3
3人	167	23.9
4人	137	19.6
5人	41	5.9
6人以上	12	1.7
無回答・無効	10	1.4
計	699	100.0



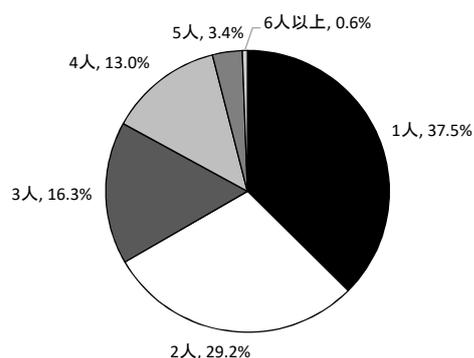
#### 〈平成22年実施 市民アンケート調査結果(※1)〉

選択肢	回答数	割合
1人	74	7.2
2人	272	26.4
3人	282	27.3
4人	284	27.5
5人	73	7.1
6人以上	47	4.6
計	1032	100.0



#### 〈高槻市人口(住民基本台帳,令和2年3月末)〉

選択肢	人数	割合
1人	60,400	37.5
2人	47,068	29.2
3人	26,331	16.3
4人	21,040	13.0
5人	5,474	3.4
6人以上	946	0.6
計	161,259	100.0



※1：たかつき地球温暖化対策アクションプラン（平成23年）策定時に実施した市民意識調査

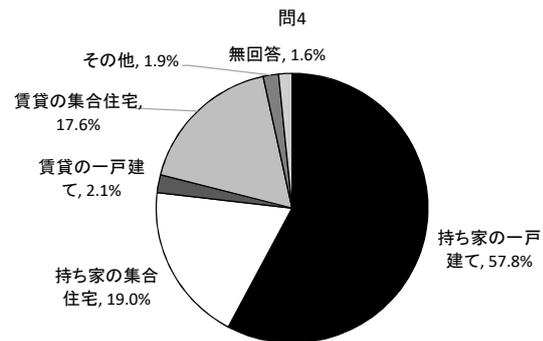
#### 問4. お住まいは、次のうちどれにあたりますか。

住宅の種類について、「持ち家の一戸建て」が最も高く 57.8%、次いで「持ち家の集合住宅」が 19.0%、「賃貸の集合住宅」が 17.6%となっています。

平成 22 年実施の市民アンケート調査と比較すると、おおむね同値となっています。

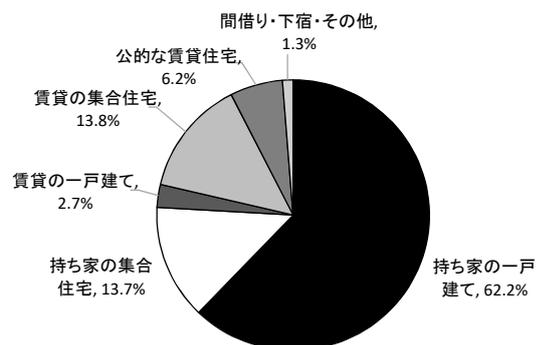
実際の高槻市の住宅の種類別戸数と比較すると、持ち家の回答が多く、賃貸の回答が少なくなっています。

選択肢	回答数	割合
持ち家の一戸建て	404	57.8
持ち家の集合住宅	133	19.0
賃貸の一戸建て	15	2.1
賃貸の集合住宅	123	17.6
その他	13	1.9
無回答・無効	11	1.6
計	699	100.0



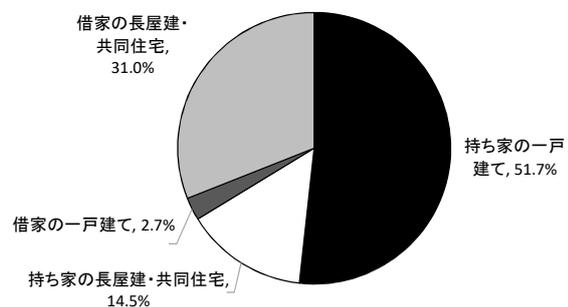
#### 〈平成 22 年実施 市民アンケート調査結果〉

選択肢	回答数	割合
持ち家の一戸建て	638	62.2
持ち家の集合住宅	141	13.7
賃貸の一戸建て	28	2.7
賃貸の集合住宅	142	13.8
公的な賃貸住宅	64	6.2
間借り・下宿・その他	13	1.3
計	1026	100.0



#### 〈平成 30 年住宅・土地統計調査結果(総務省)〉

選択肢	戸数	割合
持ち家の一戸建て	74,240	51.7
持ち家の長屋建・共同住宅	20,870	14.5
借家の一戸建て	3,900	2.7
借家の長屋建・共同住宅	44,530	31.0
計	146,130	100.0



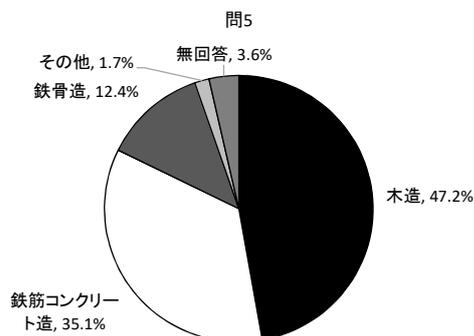
**問5. お住まいの構造は、次のうちどれにあたりますか。**

住宅の構造について、「木造」が最も高く 47.2%、次いで「鉄筋コンクリート造」が 35.1% となっています。

平成 22 年実施の市民アンケート調査と比較すると、木造、鉄筋コンクリート造は減少しています。

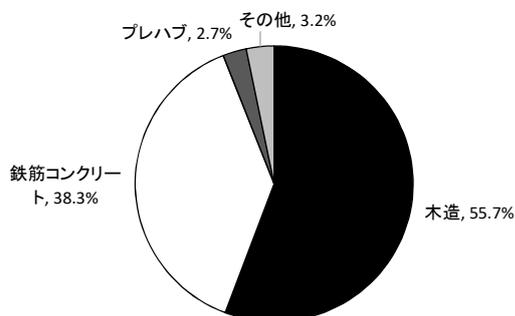
実際の高槻市の住宅の構造と比較すると、木造の回答は少なく、鉄骨造の回答が多くなっています。

選択肢	回答数	割合
木造	330	47.2
鉄筋コンクリート造	245	35.1
鉄骨造	87	12.4
その他	12	1.7
無回答・無効	25	3.6
計	699	100.0



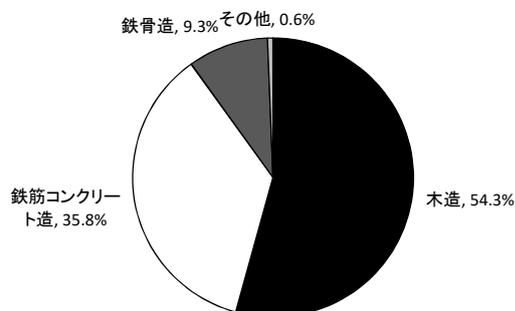
**〈平成 22 年実施 市民アンケート調査結果〉**

選択肢	回答数	割合
木造	568	55.7
鉄筋コンクリート	390	38.3
プレハブ	28	2.7
その他	33	3.2
回答者数	1019	100.0



**〈平成 30 年住宅・土地統計調査結果(総務省)〉**

選択肢	戸数	割合
木造	80,130	54.3
鉄筋コンクリート造	52,840	35.8
鉄骨造	13,680	9.3
その他	920	0.6
計	147,570	100.0

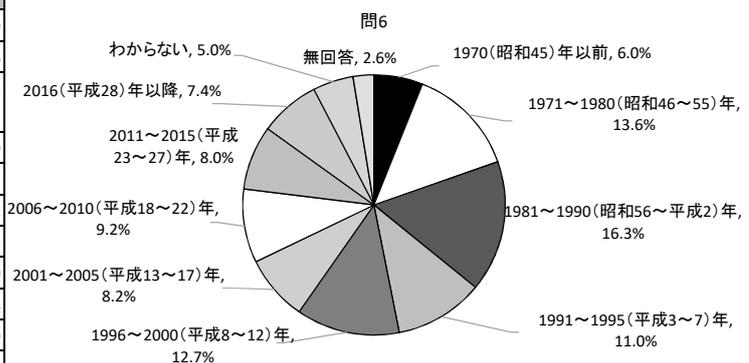


## 問6. お住まいの建築時期はいつ頃ですか。

住宅の建築時期について、「1981～1990（昭和56～平成2）年」が最も高く16.3%、次いで「1971～1980（昭和46～55）年」が13.6%、「1996～2000（平成8～12）年」が12.7%となっています。築20～29年の住宅は23.7%、築30年以上の住宅は35.9%となっています。

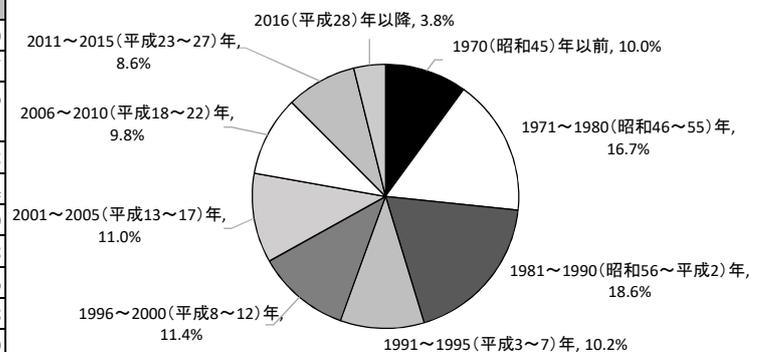
実際の高槻市の住宅の建築時期と比較すると、1990年以前の住宅の回答数が少なくなっています。

選択肢	回答数	割合
1970（昭和45）年以前	42	6.0
1971～1980（昭和46～55）年	95	13.6
1981～1990（昭和56～平成2）年	114	16.3
1991～1995（平成3～7）年	77	11.0
1996～2000（平成8～12）年	89	12.7
2001～2005（平成13～17）年	57	8.2
2006～2010（平成18～22）年	64	9.2
2011～2015（平成23～27）年	56	8.0
2016（平成28）年以降	52	7.4
わからない	35	5.0
無回答・無効	18	2.6
計	699	100.0



## 〈平成30年住宅・土地統計調査結果（総務省）〉

選択肢	戸数	割合
1970（昭和45）年以前	13,680	10.0
1971～1980（昭和46～55）年	22,880	16.7
1981～1990（昭和56～平成2）年	25,520	18.6
1991～1995（平成3～7）年	13,970	10.2
1996～2000（平成8～12）年	15,570	11.4
2001～2005（平成13～17）年	15,010	11.0
2006～2010（平成18～22）年	13,390	9.8
2011～2015（平成23～27）年	11,740	8.6
2016（平成28）年以降	5,260	3.8
計	137,020	100.0



## 2.2.2. 地球温暖化問題への取り組み状況

**問7. あなたは地球温暖化防止に関して、日常的に次のことを行っていますか。  
(以下の各項目で、それぞれあてはまる番号1つに○)**

### 【給湯】

「ア. シャワーを使うときは、不必要に流したままにしない」では、取り組んでいる人の割合（「行っている」、「時々行っている」の計）は84.7%であり、多くの人が取り組んでいます。

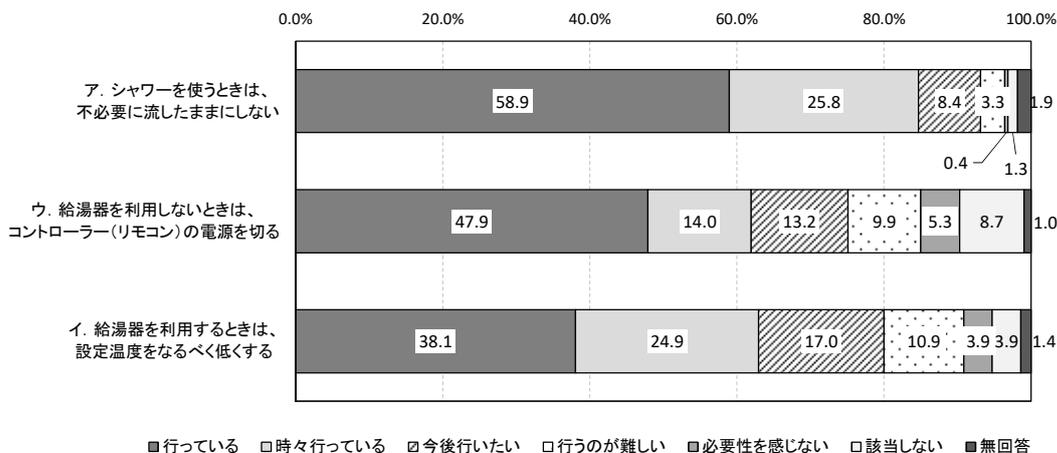
「イ. 給湯器を利用するときは、設定温度をなるべく低くする」では、取り組んでいる人の割合は、62.9%となっています。特に「今後行いたい」の回答が17.0%と高くなっています。

「ウ. 給湯器を利用しないときは、コントローラー（リモコン）の電源を切る」では、取り組んでいる人の回答は、61.9%となっています。

「必要性を感じない」の回答は、いずれも10%を下回っています。

分類	選択肢	
給湯	ア	シャワーを使うときは、不必要に流したままにしない
	イ	給湯器を利用するときは、設定温度をなるべく低くする
	ウ	給湯器を利用しないときは、コントローラー（リモコン）の電源を切る

		行っている		時々行っている		今後行いたい		行るのが難しい		必要性を感じない		該当しない		無回答		回答数	
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
給湯	ア	412	58.9	180	25.8	59	8.4	23	3.3	3	0.4	9	1.3	13	1.9	699	100.0
	イ	266	38.1	174	24.9	119	17.0	76	10.9	27	3.9	27	3.9	10	1.4	699	100.0
	ウ	335	47.9	98	14.0	92	13.2	69	9.9	37	5.3	61	8.7	7	1.0	699	100.0



## 過年度調査との比較

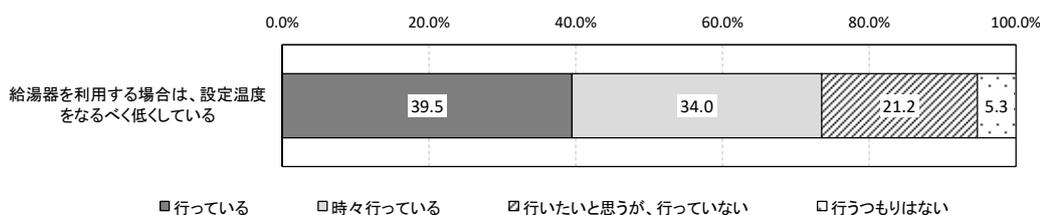
分類	選択肢		H22 高槻市調査	H30 環境省調査※2
	給湯	ア	シャワーを使うときは、不必要に流したままにしない	—
イ		給湯器を利用するときは、設定温度をなるべく低くする	○	—
ウ		給湯器を利用しないときは、コントローラー（リモコン）の電源を切る	—	○

※○:実施、—:未調査

### 〈平成 22 年実施 市民アンケート調査結果〉

「イ. 給湯器を利用するときは、設定温度をなるべく低くする」について、「行っている」の回答は、39.5%から 38.1%と、ほぼ同値となっています。

	行っている		時々行っている		行いたいと思うが行っていない		行うつもりはない		回答数	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
給湯器を利用する場合は、設定温度をなるべく低くしている	391	39.5	337	34.0	210	21.2	53	5.3	991	100.0

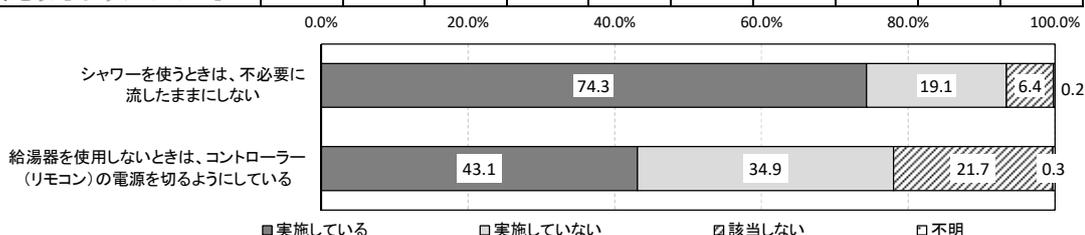


### 〈平成 30 年度 家庭部門の CO<sub>2</sub> 排出実態統計調査結果(環境省)〉

「ア. シャワーを使うときは、不必要に流したままにしない」について、取り組んでいる人の割合は、高槻市 84.7%に対して全国値 74.3%と、高槻市の方が高くなっています。

「ウ. 給湯器を利用しないときは、コントローラー（リモコン）の電源を切る」について、取り組んでいる人の割合は、高槻市 61.9%に対して全国値 43.1%と、高槻市の方が高くなっています。

	実施している		実施していない		該当しない		不明		回答数	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
シャワーを使うときは、不必要に流したままにしない	7,427	74.3	1,909	19.1	640	6.4	20	0.2	9,996	100.0
給湯器を使用しないときは、コントローラー（リモコン）の電源を切るようにしている	4,308	43.1	3,489	34.9	2,169	21.7	30	0.3	9,996	100.0



※2：環境省「平成 30 年度 家庭部門の CO<sub>2</sub> 排出実態統計調査」

【調理】

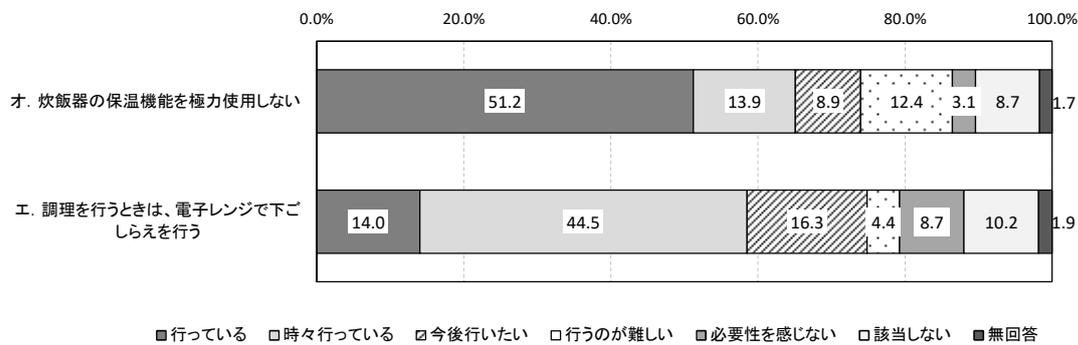
「エ. 調理を行うときは、電子レンジで下ごしらえを行う」では、取り組んでいる人の割合は、58.5%となっています。取り組みの頻度として「時々行っている」の回答は 44.5% であり、取り組み頻度の低い人の割合の方が高くなっています。また「今後行いたい」の回答が 16.3%と高くなっています。

「オ. 炊飯器の保温機能を極力使用しない」では、取り組んでいる人の回答は 65.1%と なっています。

「必要性を感じない」の回答は、いずれも 10%を下回っています。

分類	選択肢	
調理	エ	調理を行うときは、電子レンジで下ごしらえを行う
	オ	炊飯器の保温機能を極力使用しない

		行っている		時々行っている		今後行いたい		行るのが難しい		必要性を感じない		該当しない		無回答		回答数	
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
調理	エ	98	14.0	311	44.5	114	16.3	31	4.4	61	8.7	71	10.2	13	1.9	699	100.0
	オ	358	51.2	97	13.9	62	8.9	87	12.4	22	3.1	61	8.7	12	1.7	699	100.0



### 過年度調査との比較

分類	選択肢		H22 高槻市調査	H30 環境省調査
調理	エ	調理を行うときは、電子レンジで下ごしらえを行う	—	○
	オ	炊飯器の保温機能を極力使用しない	—	○

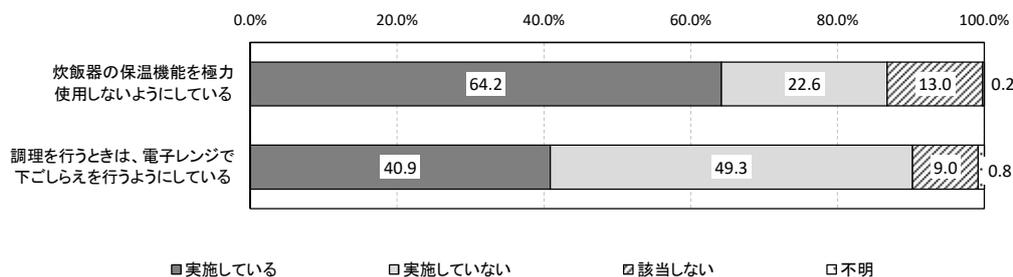
※○:実施、—:未調査

### 〈平成 30 年度 家庭部門の CO<sub>2</sub> 排出実態統計調査結果(環境省)〉

「エ. 調理を行うときは、電子レンジで下ごしらえを行う」について、取り組んでいる人の割合は、高槻市 58.5%に対して全国値 40.9%と、高槻市の方が高くなっています。

「オ. 炊飯器の保温機能を極力使用しない」について、取り組んでいる人の割合は、高槻市 65.1%に対して全国値 64.2%と、ほぼ同値となっています。

	実施している		実施していない		該当しない		不明		回答数	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
炊飯器の保温機能を極力使用しないようにしている	6,417	64.2	2,259	22.6	1,299	13.0	20	0.2	9,996	100.0
調理を行うときは、電子レンジで下ごしらえを行うようにしている	4,088	40.9	4,928	49.3	900	9.0	80	0.8	9,996	100.0



## 【電気製品】

「カ. 暖房の設定温度を、20℃以下にしている」、「キ. 冷房の設定温度を、28℃以上にしている」では、取り組んでいる人の割合はそれぞれ 45.7%、53.2%となっています。特に「行うのが難しい」の回答がそれぞれ 29.2%、25.3%と、高くなっています。

「ク. 冷蔵庫に物をつめこみ過ぎないようにしている」では、取り組んでいる人の割合は 75.6%となっています。

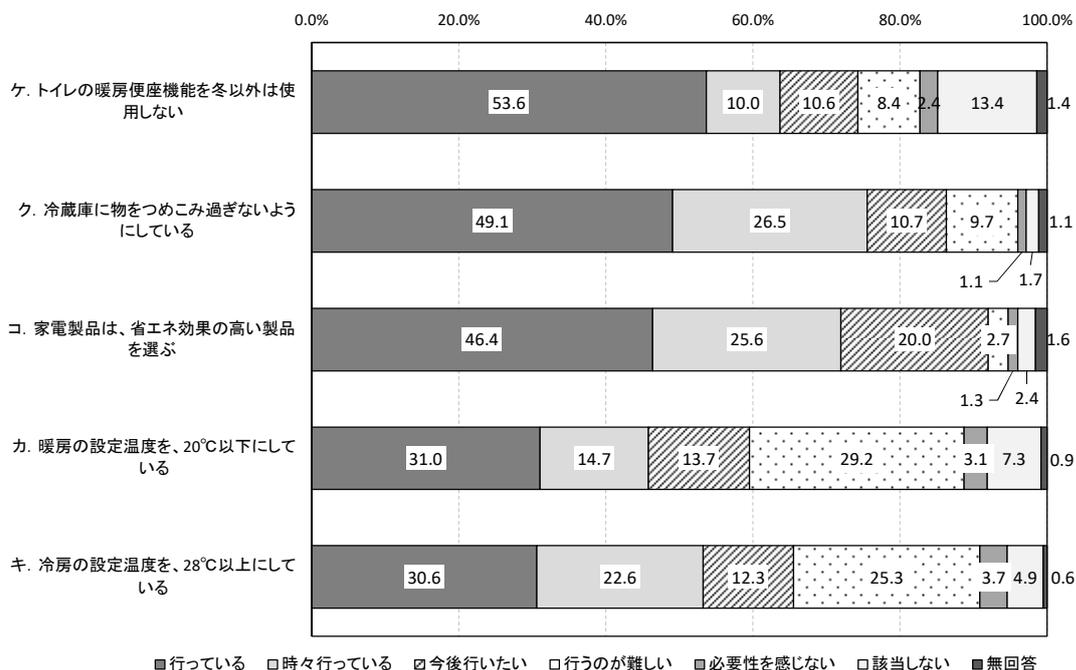
「ケ. トイレの暖房便座機能を冬以外は使用しない」では、取り組んでいる人の割合は 63.6%となっています。

「コ. 家電製品は、省エネ効果の高い製品を選ぶ」では、取り組んでいる人の割合は 72.0%となっています。特に「今後行いたい」の回答が 20.0%と高くなっています。

「必要性を感じない」の回答は、いずれも 5%を下回っています。

分類	選択肢	
電気製品	カ	暖房の設定温度を、20℃以下にしている
	キ	冷房の設定温度を、28℃以上にしている
	ク	冷蔵庫に物をつめこみ過ぎないようにしている
	ケ	トイレの暖房便座機能を冬以外は使用しない
	コ	家電製品は、省エネ効果の高い製品を選ぶ

		行っている		時々行っている		今後行いたい		行うのが難しい		必要性を感じない		該当しない		無回答		回答数	
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
電気製品	カ	217	31.0	103	14.7	96	13.7	204	29.2	22	3.1	51	7.3	6	0.9	699	100.0
	キ	214	30.6	158	22.6	86	12.3	177	25.3	26	3.7	34	4.9	4	0.6	699	100.0
	ク	343	49.1	185	26.5	75	10.7	68	9.7	8	1.1	12	1.7	8	1.1	699	100.0
	ケ	375	53.6	70	10.0	74	10.6	59	8.4	17	2.4	94	13.4	10	1.4	699	100.0
	コ	324	46.4	179	25.6	140	20.0	19	2.7	9	1.3	17	2.4	11	1.6	699	100.0



■行っている □時々行っている ▨今後行いたい □行うのが難しい □必要性を感じない □該当しない ■無回答

## 過年度調査との比較

分類	選択肢		H22 高槻市調査	H30 環境省調査
電気製品	カ	暖房の設定温度を、20℃以下にしている	○	—
	キ	冷房の設定温度を、28℃以上にしている	○	—
	ク	冷蔵庫に物をつめこみ過ぎないようにしている	○	○
	ケ	トイレの暖房便座機能を冬以外は使用しない	—	○
	コ	家電製品は、省エネ効果の高い製品を選ぶ	○	—

※○:実施、—:未調査

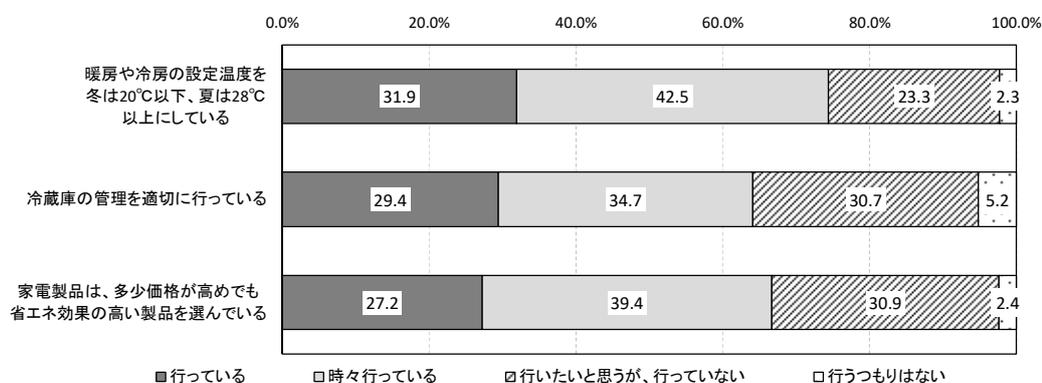
### 〈平成 22 年実施 市民アンケート調査結果〉

「カ.暖房の設定温度を、20℃以下にしている」、「キ.冷房の設定温度を、28℃以上にしている」について、「行っている」の回答は31.9%から31.0%、30.6%とほぼ同値となっています。

「ク.冷蔵庫にもものをつめこみ過ぎないようにしている」について、「冷蔵庫の管理を適切に行っている」と比較すると、「行っている」の回答は29.4%から49.1%に増加しています。

「コ.家電製品は、省エネ効果の高い製品を選ぶ」について、「家電製品は、多少価格が高めでも省エネ効果の高い製品を選んでいる」と比較して「行っている」の回答は27.2%から46.4%に増加しています。

	行っている		時々行っている		行いたいと思うが行っていない		行うつもりはない		回答数	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
暖房や冷房の設定温度を冬は20℃以下、夏は28℃以上にしている	318	31.9	423	42.5	232	23.3	23	2.3	996	100.0
冷蔵庫の管理を適切に行っている	295	29.4	348	34.7	308	30.7	52	5.2	1,003	100.0
家電製品は、多少価格が高めでも省エネ効果の高い製品を選んでいる	273	27.2	395	39.4	310	30.9	24	2.4	1,002	100.0

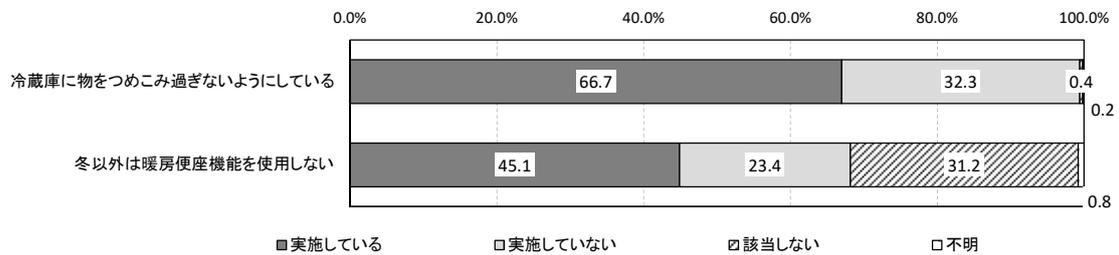


〈平成 30 年度 家庭部門の CO<sub>2</sub> 排出実態統計調査結果(環境省)〉

「ク. 冷蔵庫にものをつめこみ過ぎないようにしている」について、取り組んでいる人の割合は、高槻市 75.6%に対して全国値 66.7%と、高槻市の方が高くなっています。

「ケ. トイレの暖房便座機能を冬以外は使用しない」について、取り組んでいる人の割合は、高槻市 63.6%に対して全国値 45.1%と、高槻市の方が高くなっています。

	実施している		実施していない		該当しない		不明		回答数	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
冷蔵庫にものをつめこみ過ぎないようにしている	6,667	66.7	3,229	32.3	40	0.4	60	0.6	9,996	100.0
冬以外は暖房便座機能を使用しない	4,509	45.1	2,339	23.4	3,119	31.2	30	0.3	9,997	100.0



【自動車】

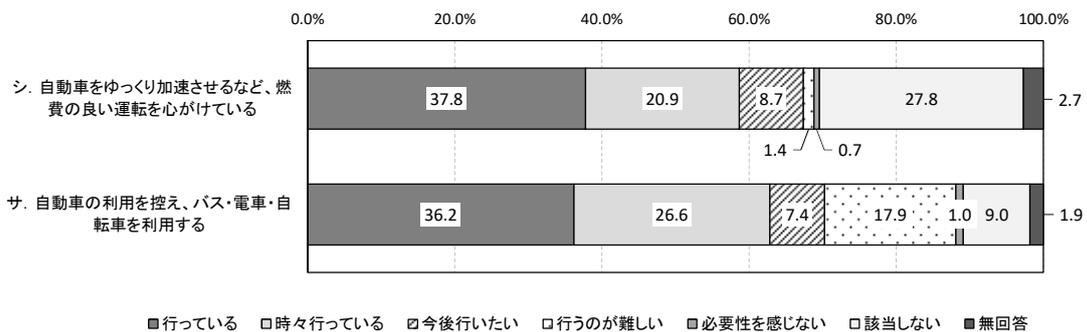
「サ. 自動車の利用を控え、バス・電車・自転車を利用する」では、取り組んでいる人の割合は62.8%となっています。また「行るのが難しい」の回答は17.9%と高くなっています。

「シ. 自動車をゆっくり加速させるなど、燃費の良い運転を心がけている」では、取り組んでいる人の割合は58.7%となっています。

「必要性を感じない」の回答は、いずれも1%以下となっています。

分類	選択肢	
自動車	サ	自動車の利用を控え、バス・電車・自転車を利用する
	シ	自動車をゆっくり加速させるなど、燃費の良い運転を心がけている

		行っている		時々行っている		今後行いたい		行るのが難しい		必要性を感じない		該当しない		無回答		回答数	
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
自動車	サ	253	36.2	186	26.6	52	7.4	125	17.9	7	1.0	63	9.0	13	1.9	699	100.0
	シ	264	37.8	146	20.9	61	8.7	10	1.4	5	0.7	194	27.8	19	2.7	699	100.0



## 過年度調査との比較

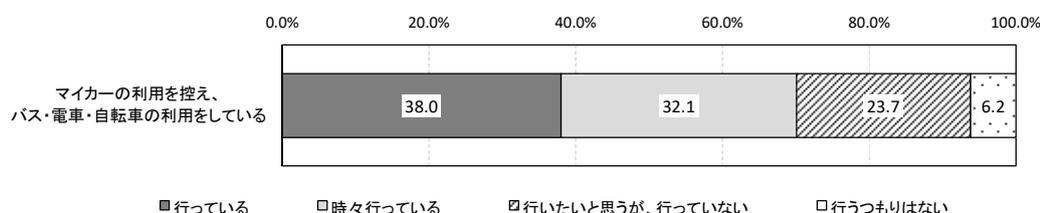
分類	選択肢		H22 高槻市調査	H30 環境省調査
	自動車	サ	自動車の利用を控え、バス・電車・自転車を利用する	○
シ		自動車をゆっくり加速させるなど、燃費の良い運転を心がけている	—	○

※○:実施、—:未調査

### 〈平成 22 年実施 市民アンケート調査結果〉

「サ.自動車の利用を控え、バス・電車・自転車を利用する」について、「行っている」の回答は 38.0%から 36.2%に微減しています。

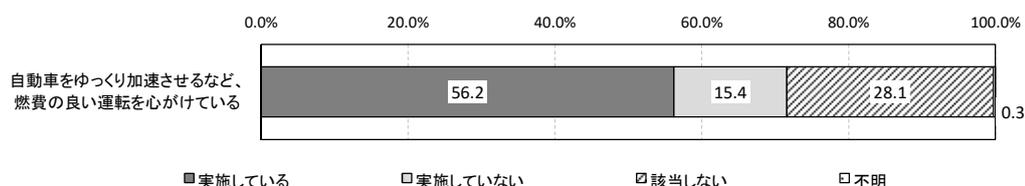
	行っている		時々行っている		行いたいと思うが行っていない		行うつもりはない		回答数	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
マイカーの利用を控え、バス・電車・自転車の利用をしている	368	38.0	311	32.1	230	23.7	60	6.2	969	100.0



### 〈平成 30 年度 家庭部門の CO<sub>2</sub> 排出実態統計調査結果(環境省)〉

「シ.自動車をゆっくり加速させるなど、燃費の良い運転を心がけている」について、取り組んでいる人の割合は、高槻市 58.7%に対して全国値 56.2%と、高槻市の方が少し高くなっています。

	実施している		実施していない		該当しない		不明		回答数	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
自動車をゆっくり加速させるなど、燃費の良い運転を心がけている	5,618	56.2	1,539	15.4	2,809	28.1	30	0.3	9,996	100.0



## 【省資源】

「ス. 詰め替え可能な商品（シャンプー）などの環境に配慮した商品を購入する」では、取り組んでいる人の割合は94.9%となっています。そのうち「行っている」の回答は77.0%となっており、多くの人々が日常的に取り組んでいます。

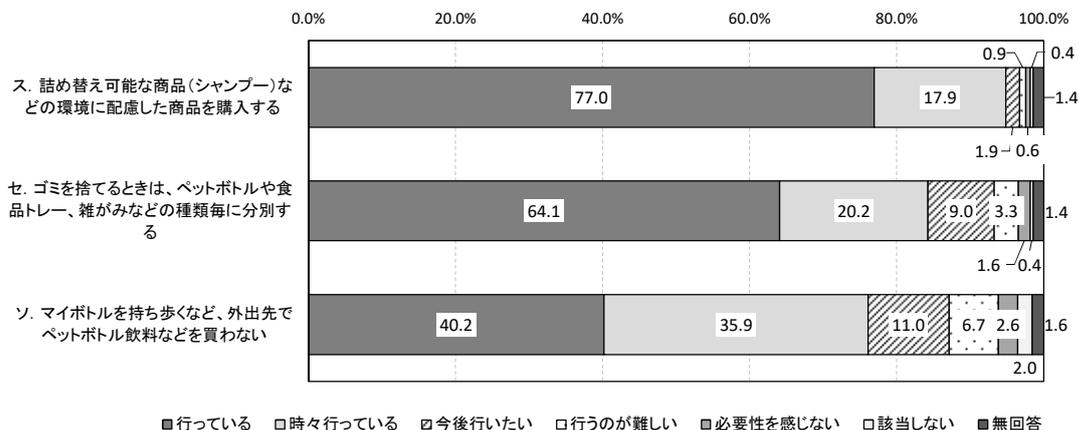
「セ. ゴミを捨てるときは、ペットボトルや食品トレー、雑がみなどの種類毎に分別する」では、取り組んでいる人の割合は84.3%であり、多くの人々が取り組んでいます。

「ソ. マイボトルを持ち歩くなど、外出先でペットボトル飲料などを買わない」では、取り組んでいる人の割合は76.1%となっています。取り組みの頻度として、「時々行っている」の回答は35.9%と高くなっています。

「必要性を感じない」の回答は、いずれも3%を下回っています。

分類	選択肢	
省資源	ス	詰め替え可能な商品（シャンプー）などの環境に配慮した商品を購入する
	セ	ゴミを捨てるときは、ペットボトルや食品トレー、雑がみなどの種類毎に分別する
	ソ	マイボトルを持ち歩くなど、外出先でペットボトル飲料などを買わない

	分類	行っている		時々行っている		今後行いたい		行うのが難しい		必要性を感じない		該当しない		無回答		回答数	
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合		
省資源	ス	538	77.0	125	17.9	13	1.9	6	0.9	4	0.6	3	0.4	10	1.4	699	100.0
	セ	448	64.1	141	20.2	63	9.0	23	3.3	11	1.6	3	0.4	10	1.4	699	100.0
	ソ	281	40.2	251	35.9	77	11.0	47	6.7	18	2.6	14	2.0	11	1.6	699	100.0



## 過年度調査との比較

分類	選択肢		H22 高槻市調査	H30 環境省調査
省資源	ス	詰め替え可能な商品（シャンプー）などの環境に配慮した商品を購入する	—	—
	セ	ゴミを捨てるときは、ペットボトルや食品トレー、雑がみなどの種類毎に分別する	—	—
	ソ	マイボトルを持ち歩くなど、外出先でペットボトル飲料などを買わない	—	—

※○：実施、—：未調査

【その他】

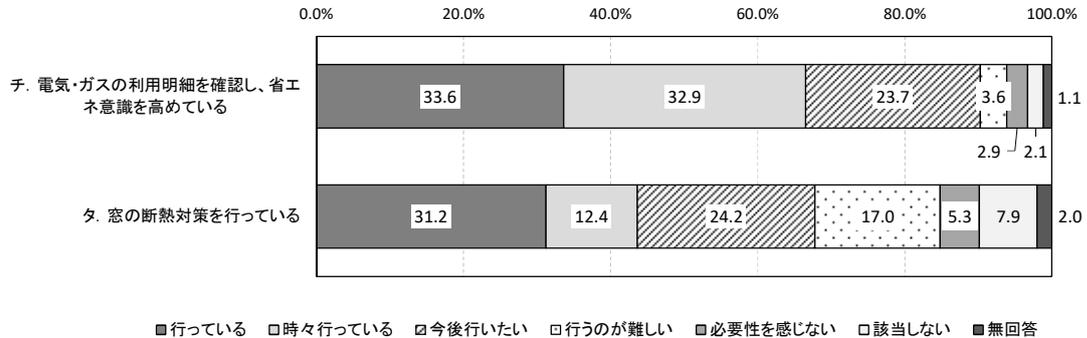
「タ. 窓の断熱対策を行っている」では、取り組んでいる人の割合は、43.6%となっています。「今後行いたい」が24.2%、「行うのが難しい」が17.0%とそれぞれ高くなっています。

「チ. 電気・ガスの利用明細を確認し、省エネ意識を高めている」では、取り組んでいる人の割合は、66.5%となっています。取り組みの頻度として「時々行っている」の回答は32.9%と高くなっています。また「今後行いたい」の回答が23.7%と高くなっています。

「必要性を感じない」の回答は、いずれも10%を下回っています。

分類	選択肢	
その他	タ	窓の断熱対策を行っている
	チ	電気・ガスの利用明細を確認し、省エネ意識を高めている

		行っている		時々行っている		今後行いたい		行うのが難しい		必要性を感じない		該当しない		無回答		回答数	
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
その他	タ	218	31.2	87	12.4	169	24.2	119	17.0	37	5.3	55	7.9	14	2.0	699	100.0
	チ	235	33.6	230	32.9	166	23.7	25	3.6	20	2.9	15	2.1	8	1.1	699	100.0



過年度調査との比較

分類	選択肢		H22 高槻市調査	H30 環境省調査
その他	タ	窓の断熱対策を行っている	—	—
	チ	電気・ガスの利用明細を確認し、省エネ意識を高めている	—	—

※○：実施、—：未調査

**問8. 地球温暖化防止に役立つ再生可能エネルギー機器や省エネルギー設備について、ご自宅に導入されていますか。(以下の各項目で、それぞれあてはまる番号1つに○)**

地球温暖化防止に役立つ機器や設備の導入について、「すでに導入している」の回答は「ク. LEDなどの省エネ型照明」で最も高く 67.4%、次いで「ケ. 人感センサーつき自動照明」の 32.9%となっています。

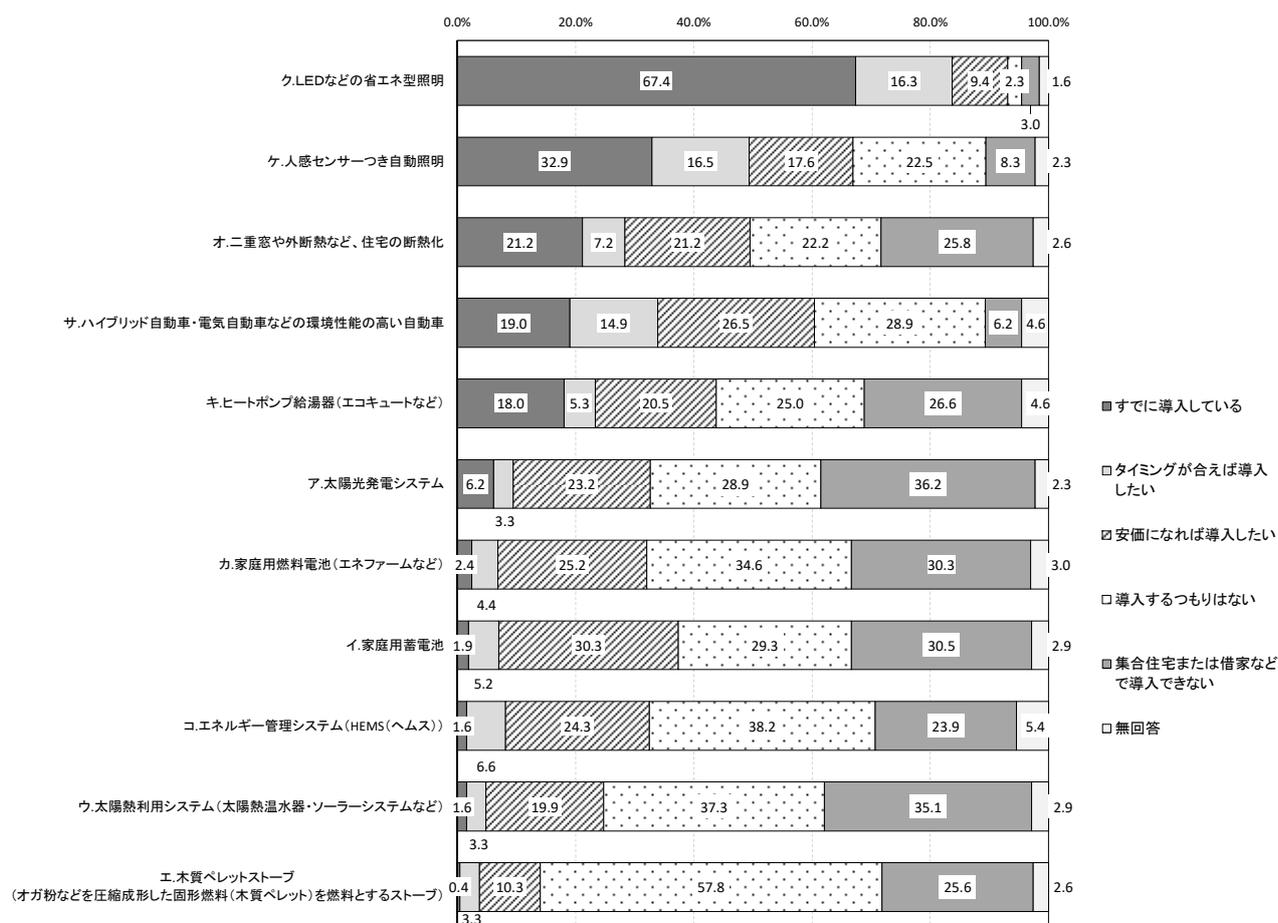
「タイミングが合えば導入したい」の回答は「ケ. 人感センサーつき自動照明」が最も高く 16.5%、次いで「ク. LEDなどの省エネ型照明」の 16.3%となっています。

「安価になれば導入したい」の回答は「イ. 家庭用蓄電池」が最も高く 30.3%、次いで「サ. ハイブリッド自動車・電気自動車などの環境性能の高い自動車」の 26.5%となっています。

「導入するつもりはない」の回答は「エ. 木質ペレットストーブ」で最も高く 57.8%、次いで「コ. エネルギー管理システム (HEMS)」の 38.2%となっています。

選択肢	
ア	太陽光発電システム
イ	家庭用蓄電池
ウ	太陽熱利用システム (太陽熱温水器・ソーラーシステムなど)
エ	木質ペレットストーブ (オガ粉などを圧縮成形した固形燃料 (木質ペレット) を燃料とするストーブ)
オ	二重窓や外断熱など、住宅の断熱化
カ	家庭用燃料電池 (エネファームなど)
キ	ヒートポンプ給湯器 (エコキュートなど)
ク	LEDなどの省エネ型照明
ケ	人感センサーつき自動照明
コ	エネルギー管理システム (HEMS (ヘムス))
サ	ハイブリッド自動車・電気自動車などの環境性能の高い自動車

	すでに導入している		タイミングが合えば導入したい		安価になれば導入したい		導入するつもりはない		集合住宅または借家などで導入できない		無回答		回答数	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
ア	43	6.2	23	3.3	162	23.2	202	28.9	253	36.2	16	2.3	699	100.0
イ	13	1.9	36	5.2	212	30.3	205	29.3	213	30.5	20	2.9	699	100.0
ウ	11	1.6	23	3.3	139	19.9	261	37.3	245	35.1	20	2.9	699	100.0
エ	3	0.4	23	3.3	72	10.3	404	57.8	179	25.6	18	2.6	699	100.0
オ	148	21.2	50	7.2	148	21.2	155	22.2	180	25.8	18	2.6	699	100.0
カ	17	2.4	31	4.4	176	25.2	242	34.6	212	30.3	21	3.0	699	100.0
キ	126	18.0	37	5.3	143	20.5	175	25.0	186	26.6	32	4.6	699	100.0
ク	471	67.4	114	16.3	66	9.4	16	2.3	21	3.0	11	1.6	699	100.0
ケ	230	32.9	115	16.5	123	17.6	157	22.5	58	8.3	16	2.3	699	100.0
コ	11	1.6	46	6.6	170	24.3	267	38.2	167	23.9	38	5.4	699	100.0
サ	133	19.0	104	14.9	185	26.5	202	28.9	43	6.2	32	4.6	699	100.0



## 過年度調査との比較

選択肢		H22 高槻市調査	H30 環境省調査
ア	太陽光発電システム	○	○
イ	家庭用蓄電池	—	—
ウ	太陽熱利用システム（太陽熱温水器・ソーラーシステムなど）	○	○
エ	木質ペレットストーブ（オガ粉などを圧縮成形した固形燃料（木質ペレット）を燃料とするストーブ）	○	—
オ	二重窓や外断熱など、住宅の断熱化	○	○
カ	家庭用燃料電池（エネファームなど）	○	○
キ	ヒートポンプ給湯器（エコキュートなど）	○	○
ク	LEDなどの省エネ型照明	○	○
ケ	人感センサーつき自動照明	—	—
コ	エネルギー管理システム（HEMS（ヘムス））	—	○
サ	ハイブリッド自動車・電気自動車などの環境性能の高い自動車	—	—

※○：実施、—：未調査

本調査問8について、「集合住宅または借家などで導入できない」、「無回答」を除いた割合をもとに比較しました。

		すでに導入している		タイミングが合えば導入したい		安価になれば導入したい		導入するつもりはない		回答数	
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
ア	太陽光発電システム	43	10.0	23	5.3	162	37.7	202	47.0	430	100.0
イ	家庭用蓄電池	13	2.8	36	7.7	212	45.5	205	44.0	466	100.0
ウ	太陽熱利用システム（太陽熱温水器・ソーラーシステムなど）	11	2.5	23	5.3	139	32.0	261	60.1	434	100.0
エ	木質ペレットストーブ（オガ粉などを圧縮成形した固形燃料（木質ペレット）を燃料とするストーブ）	3	0.6	23	4.6	72	14.3	404	80.5	502	100.0
オ	二重窓や外断熱など、住宅の断熱化	148	29.5	50	10.0	148	29.5	155	30.9	501	100.0
カ	家庭用燃料電池（エネファームなど）	17	3.6	31	6.7	176	37.8	242	51.9	466	100.0
キ	ヒートポンプ給湯器（エコキュートなど）	126	26.2	37	7.7	143	29.7	175	36.4	481	100.0
ク	LEDなどの省エネ型照明	471	70.6	114	17.1	66	9.9	16	2.4	667	100.0
ケ	人感センサーつき自動照明	230	36.8	115	18.4	123	19.7	157	25.1	625	100.0
コ	エネルギー管理システム（HEMS（ヘムス））	11	2.2	46	9.3	170	34.4	267	54.0	494	100.0
サ	ハイブリッド自動車・電気自動車などの環境性能の高い自動車	133	21.3	104	16.7	185	29.6	202	32.4	624	100.0

〈平成 22 年実施 市民アンケート調査結果〉

「ア.太陽光発電システム」について、「すでに導入している」の回答は 2.4%から 10.0%に増加しています。導入したいという回答は 52.7%から 43.0%に減少しています。

「ウ.太陽熱利用システム」について、「すでに導入している」の回答は 2.6%から 2.5%と変わらず低い割合となっています。導入したいという回答は 50.4%から 37.3%に減少しています。

「オ.二重窓や外断熱など、住宅の断熱化」について、「すでに導入している」の回答は 13.6%から 29.5%に増加しています。「導入するつもりはない」の回答は 32.7%から 30.9%に微減しています。

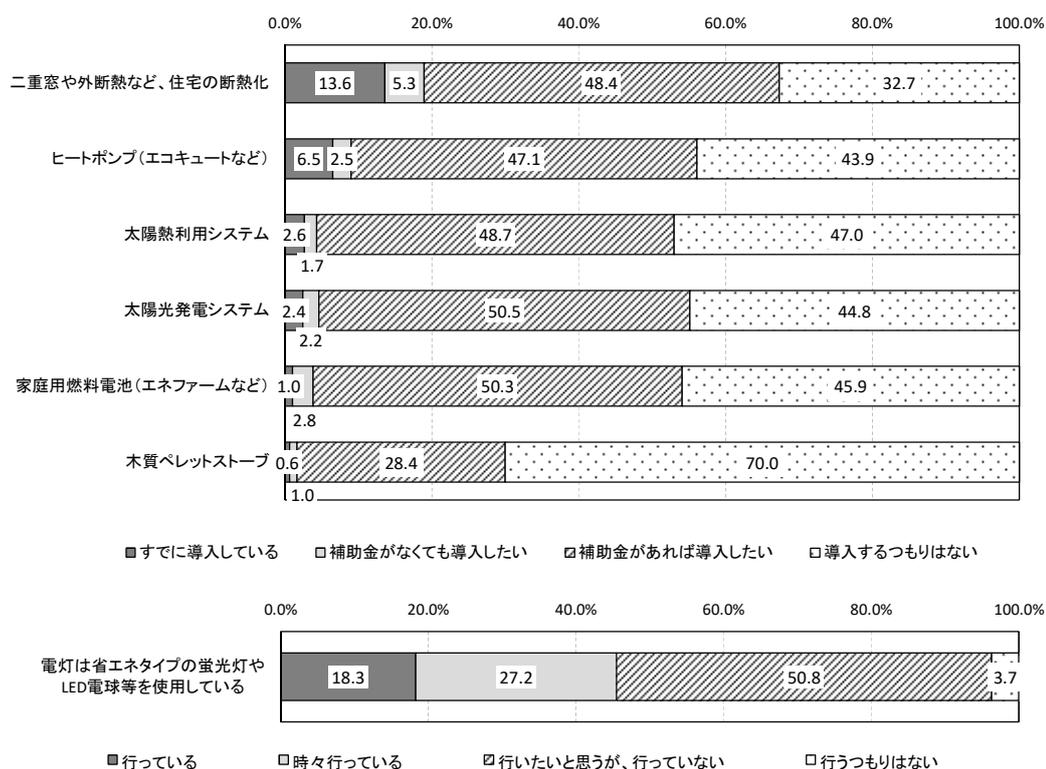
「カ.家庭用燃料電池（エネファームなど）」について、「すでに導入している」の回答は 1.0%から 3.6%と微増しています。導入したいという回答は 53.1%から 44.4%に減少しています。

「キ.ヒートポンプ給湯器（エコキュートなど）」について、「すでに導入している」の回答は 6.5%から 26.2%に増加しています。「導入するつもりはない」の回答は 43.9%から 36.4%に減少しています。

「ク.LED などの省エネ型照明」について、取り組んでいる人（導入している人）の割合は 45.5%から 70.6%に増加しています。

	すでに導入している		補助金がなくても導入したい		補助金があれば導入したい		導入するつもりはない		回答数	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
二重窓や外断熱など、住宅の断熱化	126	13.6	49	5.3	449	48.4	303	32.7	927	100.0
ヒートポンプ（エコキュートなど）	59	6.5	23	2.5	425	47.1	396	43.9	903	100.0
太陽熱利用システム	24	2.6	16	1.7	451	48.7	435	47.0	926	100.0
太陽光発電システム	23	2.4	21	2.2	476	50.5	422	44.8	941	100.0
家庭用燃料電池（エネファームなど）	9	1.0	25	2.8	450	50.3	411	45.9	895	100.0
木質ペレットストーブ	5	0.6	9	1.0	254	28.4	625	70.0	893	100.0

	行っている		時々行っている		行いたいと思うが行っていない		行うつもりはない		回答数	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
電灯は省エネタイプの蛍光灯やLED電球等を使用している	182	18.3	271	27.2	505	50.8	37	3.7	995	100.0

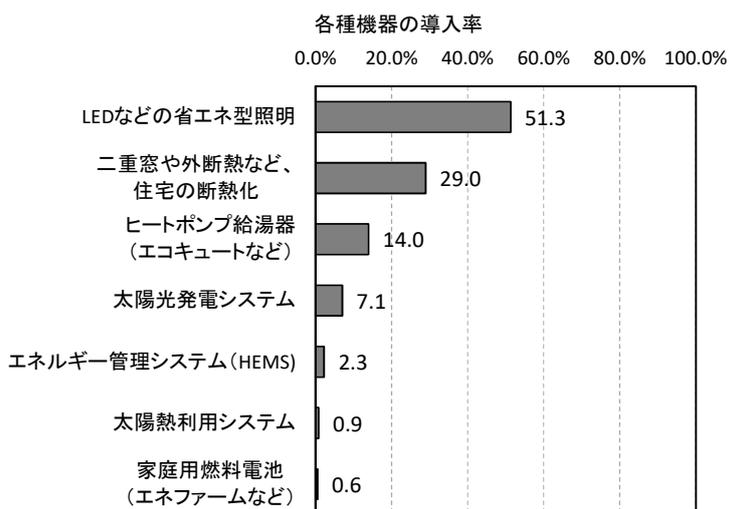


### 〈平成30年度 家庭部門のCO<sub>2</sub>排出実態統計調査結果(環境省)〉

高槻市の傾向と同様に、LEDなどの省エネ型照明や断熱化の導入率は高く、HEMSや太陽熱利用システム、家庭用燃料電池の導入率は低くなっています。

選択肢	割合
LEDなどの省エネ型照明	51.3
二重窓や外断熱など、住宅の断熱化	29.0
ヒートポンプ給湯器(エコキュートなど)	14.0
太陽光発電システム	7.1
エネルギー管理システム(HEMS)	2.3
太陽熱利用システム	0.9
家庭用燃料電池(エネファームなど)	0.6

※機器の使用状況全国値  
地域的なばらつきの多い断熱化のみ近畿の値を使用

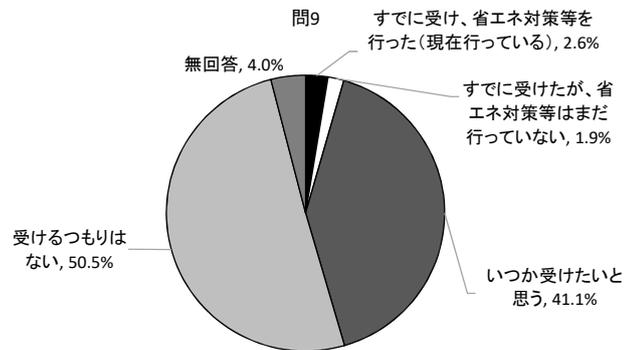


**問9. 省エネルギー診断を受けたことがありますか。(あてはまる番号1つに○)**

省エネルギー診断について、「受けるつもりはない」が最も高く 50.5%、次いで「いつか受けたと思う」が 41.1%となっています。

すで省エネルギー診断を受けているのは 4.5%で、そのうち省エネ対策を行っているのは 2.6%となっています。

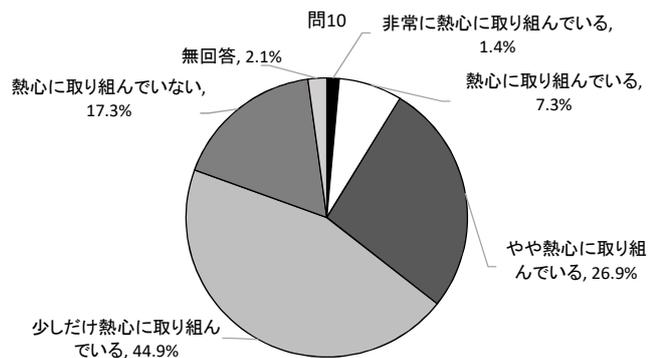
選択肢	回答数	割合
すでに受け、省エネ対策等を行った(現在行っている)	18	2.6
すでに受けたが、省エネ対策等はまだ行っていない	13	1.9
いつか受けたと思う	287	41.1
受けるつもりはない	353	50.5
無回答・無効	28	4.0
計	699	100.0



**問10. あなたは、地球温暖化問題に対して、どの程度、熱心に取り組んでいると自己評価していますか。(あてはまる番号1つに○)**

地球温暖化問題に対する取り組みの熱心さについて、選択肢を下表のように 3 つに分類したとき、「熱心」の回答は 8.7%であるのに対し、「ふつう」は 71.8%、「熱心でない」は 17.3%となっています。

	選択肢	回答数	割合	
熱心	非常に熱心に取り組んでいる	10	1.4	8.7
	熱心に取り組んでいる	51	7.3	
ふつう	やや熱心に取り組んでいる	188	26.9	71.8
	少しだけ熱心に取り組んでいる	314	44.9	
熱心でない	熱心に取り組んでいない	121	17.3	17.3
	無回答・無効	15	2.1	
	計	699	100.0	



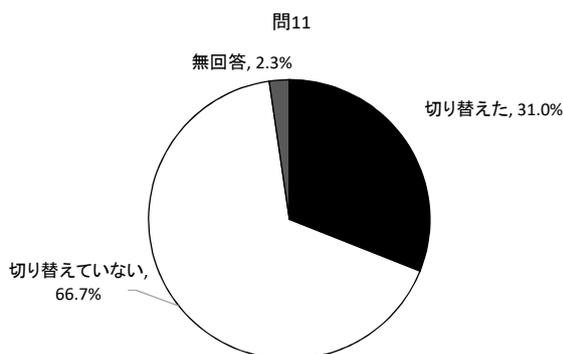
### 2.2.3. 電力の購入状況

#### 問11. 電力の購入先を関西電力株式会社から、他社に切り替えましたか。 (あてはまる番号1つに○)

関西電力株式会社からの購入先の切り替えについて、「切り替えた」が31.0%なのに対して、「切り替えていない」が66.7%となっています。

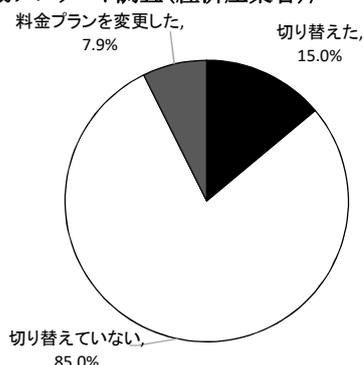
平成29年時点の全国値と比較すると、切り替えた人の割合は15.0%から31.0%と倍増しています。

選択肢	回答数	割合
切り替えた	217	31.0
切り替えていない	466	66.7
無回答・無効	16	2.3
計	699	100.0



#### 〈平成29年 電力・ガス小売自由化における消費者の選択行動アンケート調査(経済産業省)〉

地域名	人数	割合
切り替えた	1,388	13.9
料金プランを変更した	733	7.3
切り替えていない	7,879	78.8
計	10,000	100.0

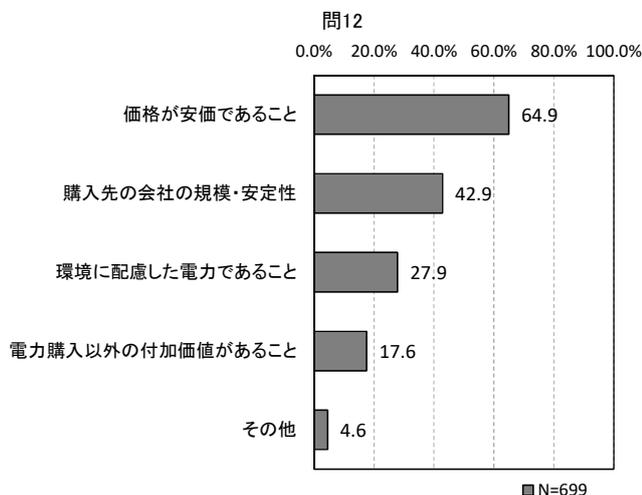


※切り替え前の購入先は関西電力株式会社に限定しない。

#### 問12. 電力の購入先を選択するときに重要なことは次のうちどれですか。(3つまで○)

電力の購入時に重視する点について、「価格が安価であること」が最も高く64.9%、次いで「購入先の会社の規模・安定性」が42.9%となっています。

選択肢	回答数	割合
価格が安価であること	453	64.9
購入先の会社の規模・安定性	300	42.9
環境に配慮した電力であること	195	27.9
電力購入以外の付加価値があること	123	17.6
その他	32	4.6
無回答・無効	30	4.3
計(回答人数)	699	



## 2.2.4. 自動車の使い方

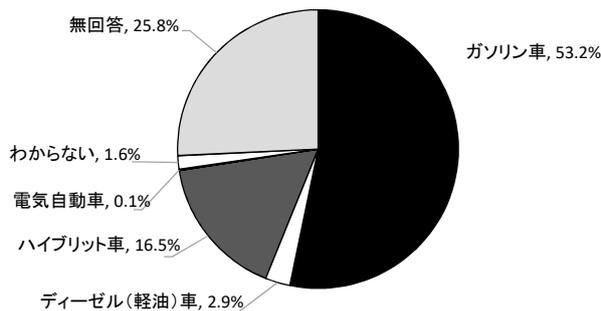
**問13. あなたの世帯で、最も利用されている自動車の種類は次のうちどれですか。(あてはまる番号1つに○)**

最も利用されている自動車の種類について、「ガソリン車」が最も高く 53.2%、次いで「ハイブリット車」が 16.5%、「ディーゼル（軽油）車」が 2.9%となっています。

全国値と比較すると（無回答を除く）、ガソリン車の割合が高く、ハイブリット車の割合が少なくなっています。

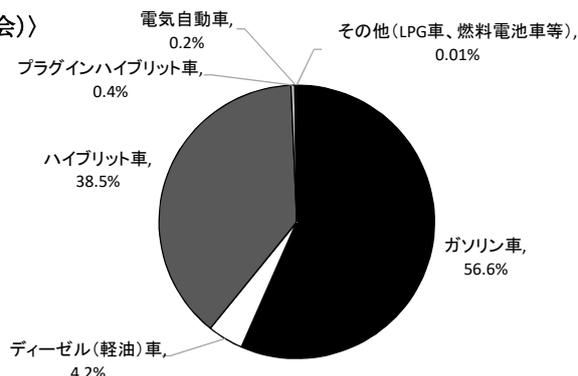
問13

選択肢	回答数	割合
ガソリン車	372	53.2
ディーゼル（軽油）車	20	2.9
ハイブリット車	115	16.5
プラグインハイブリット車	0	0.0
電気自動車	1	0.1
その他（LPG車、燃料電池車等）	0	0.0
わからない	11	1.6
無回答・無効	180	25.8
計	699	100.0



**〈燃料別販売台数(令和2年、日本自動車販売協会連合会)〉**

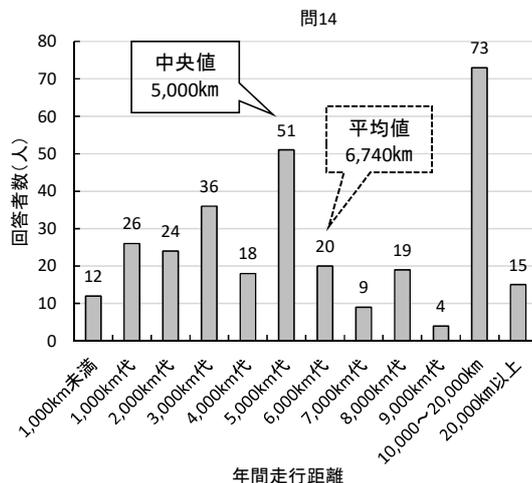
選択肢	回答数	割合
ガソリン車	81,899	56.6
ディーゼル（軽油）車	6,064	4.2
ハイブリット車	55,727	38.5
プラグインハイブリット車	635	0.4
電気自動車	330	0.2
その他（LPG車、燃料電池車等）	19	0.01
計	144,674	100.0



**問14. 問13で回答された自動車について、あなたの世帯では、その自動車をどの程度利用されていますか。年間の走行距離をお答えください。(あてはまる番号1つに○)**

年間の走行距離について、平均は約 6 千 7 百 km で、内訳は 3~5 千 km 程度が最も高く 34.2%、1 万 km 以上走行する人は 28.7%となっています。

選択肢	回答数	割合
1,000km 未満	12	3.9
1,000km 代	26	8.5
2,000km 代	24	7.8
3,000km 代	36	11.7
4,000km 代	18	5.9
5,000km 代	51	16.6
6,000km 代	20	6.5
7,000km 代	9	2.9
8,000km 代	19	6.2
9,000km 代	4	1.3
10,000~20,000 km	73	23.8
20,000 km 以上	15	4.9
計	307	100.0



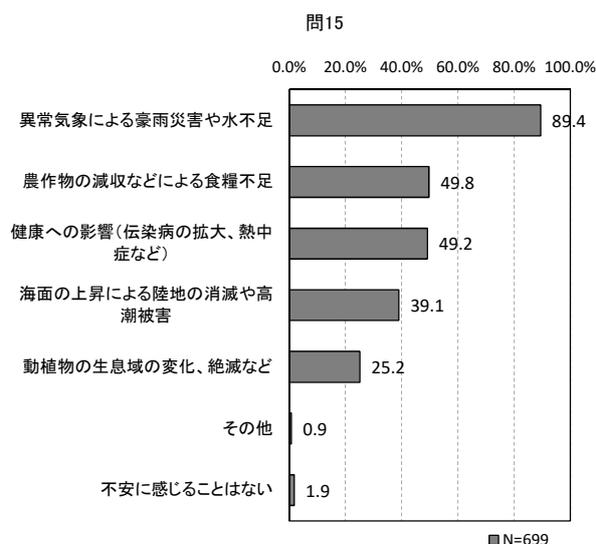
## 2.2.5. 地球温暖化対策のあり方に対する意識

### 問15. 地球温暖化の影響で、不安に感じることはありますか。(3つまで○)

地球温暖化の影響で不安に感じることについて、「異常気象による豪雨災害や水不足」が最も高く 89.4%、次いで「農作物の減収などによる食糧不足」が 49.8%、「健康への影響（伝染病の拡大、熱中症など）」が 49.2%となっています。

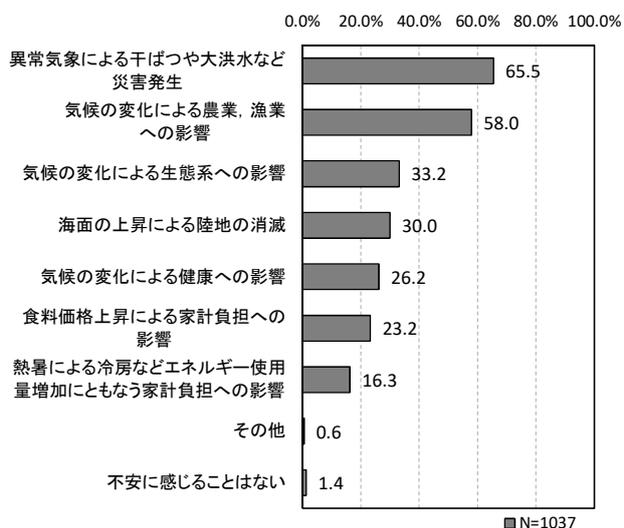
平成 22 年実施の市民アンケート調査結果と比較すると、異常気象による災害に加えて、健康への影響に関する割合が増加しています。

選択肢	回答数	割合
異常気象による豪雨災害や水不足	625	89.4
農作物の減収などによる食糧不足	348	49.8
健康への影響（伝染病の拡大、熱中症など）	344	49.2
海面の上昇による陸地の消滅や高潮被害	273	39.1
動植物の生息域の変化、絶滅など	176	25.2
その他	6	0.9
不安に感じることはない	13	1.9
無回答・無効	21	3.0
計（回答人数）	699	



### 〈平成 22 年実施 市民アンケート調査結果〉

選択肢	回答数	割合
異常気象による干ばつや大洪水など災害発生	679	65.5
気候の変化による農業、漁業への影響	601	58.0
気候の変化による生態系への影響	344	33.2
海面の上昇による陸地の消滅	311	30.0
気候の変化による健康への影響	272	26.2
食料価格上昇による家計負担への影響	241	23.2
熱暑による冷房などエネルギー使用量増加にともなう家計負担への影響	169	16.3
その他	6	0.6
不安に感じることはない	14	1.4
計（回答人数）	1037	

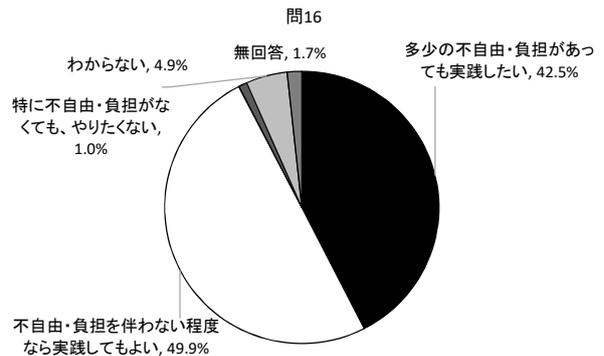


**問16. 地球温暖化対策に対する考え方として、あなたの考えに近いものはどれですか。(あてはまる番号1つに○)**

地球温暖化対策に対する考え方について、「多少の不自由・負担があっても実践したい」が42.5%、「不自由・負担を伴わない程度なら実践してもよい」が49.9%となっています。

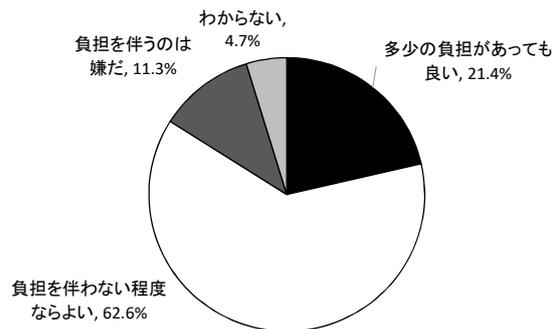
平成22年実施の市民アンケート調査結果と比較すると、多少の負担があっても実践したいの割合が大きく増加しています。

選択肢	回答数	割合
多少の不自由・負担があっても実践したい	297	42.5
不自由・負担を伴わない程度なら実践してもよい	349	49.9
特に不自由・負担がなくても、やりたくない	7	1.0
わからない	34	4.9
無回答・無効	12	1.7
計	699	100.0



**(平成22年実施 市民アンケート調査結果)**

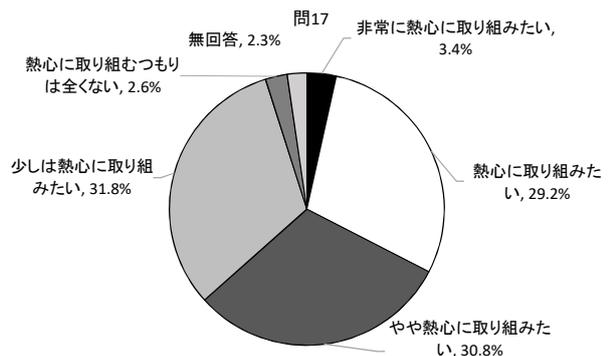
選択肢	回答数	割合
多少の負担があっても良い	203	21.4
負担を伴わない程度ならよい	593	62.6
負担を伴うのは嫌だ	107	11.3
わからない	45	4.7
計	948	100.0



**問17. 今後、あなたは地球温暖化問題に対して、どの程度、熱心に取り組みたいと考えていますか。(あてはまる番号1つに○)**

地球温暖化対策に対する姿勢について、選択肢を下表のように3つに分類したとき、「熱心に取り組みたい」の回答は32.6%、「ふつうに取り組みたい」は62.6%、「熱心に取り組まない」は2.6%となっています。

	選択肢	回答数	割合
熱心に取り組みたい	非常に熱心に取り組みたい	24	3.4
	熱心に取り組みたい	204	29.2
ふつうに取り組みたい	やや熱心に取り組みたい	215	30.8
	少しは熱心に取り組みたい	222	31.8
熱心に取り組まない	熱心に取り組むつもりは全くない	18	2.6
	無回答・無効	16	2.3
	計	699	100.0

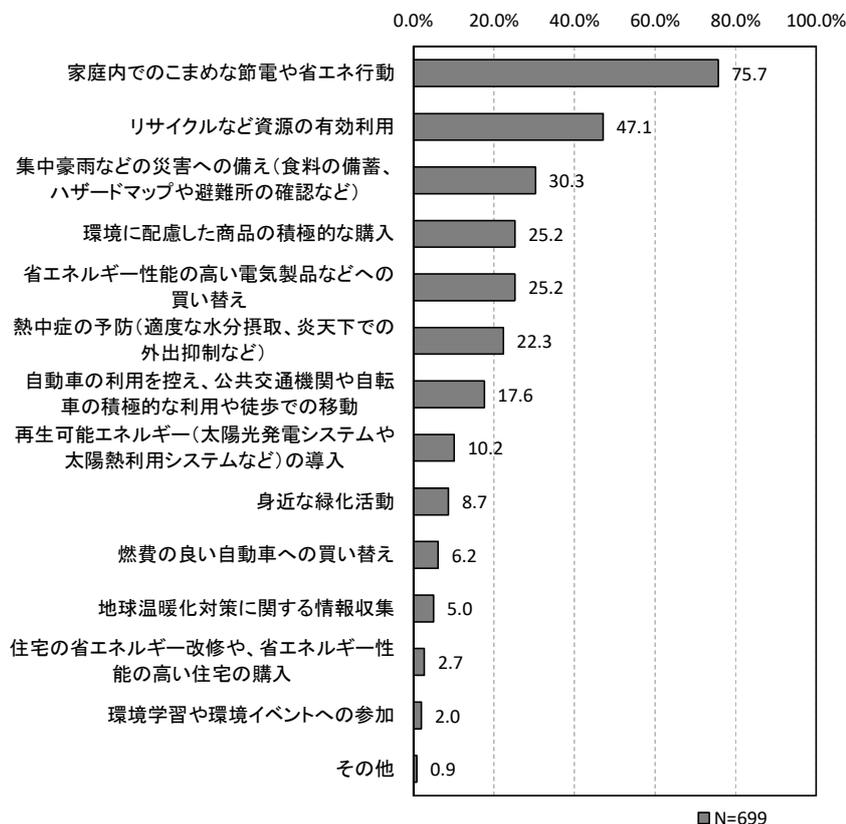


**問18. 地球温暖化対策や、地球温暖化に伴う被害を軽減するために、自らが取り組むべき事項について、特に必要だと思うものはどれですか。(3つまで)**

地球温暖化のために自らが取り組むべき事項について、「家庭内でのこまめな節電や省エネ行動」が最も高く 75.7%、次いで「リサイクルなど資源の有効利用」が 47.1%、「集中豪雨などの災害への備え（食料の備蓄、ハザードマップや避難所の確認など）」が 30.3%となっています。

	選択肢	回答数	割合
省エネ・省資源行動	家庭内でのこまめな節電や省エネ行動	529	75.7
	環境に配慮した商品の積極的な購入	176	25.2
	省エネルギー性能の高い電気製品などへの買い替え	176	25.2
	燃費の良い自動車への買い替え	43	6.2
	住宅の省エネルギー改修や、省エネルギー性能の高い住宅の購入	19	2.7
	再生可能エネルギー（太陽光発電システムや太陽熱利用システムなど）の導入	71	10.2
	自動車の利用を控え、公共交通機関や自転車の積極的な利用や徒歩での移動	123	17.6
	リサイクルなど資源の有効利用	329	47.1
	身近な緑化活動	61	8.7
	学習	地球温暖化対策に関する情報収集	35
環境学習や環境イベントへの参加		14	2.0
適応	集中豪雨などの災害への備え（食料の備蓄、ハザードマップや避難所の確認など）	212	30.3
	熱中症の予防（適度な水分摂取、炎天下での外出抑制など）	156	22.3
	その他	6	0.9
	無回答・無効	17	2.4
	計（回答人数）	699	

問18

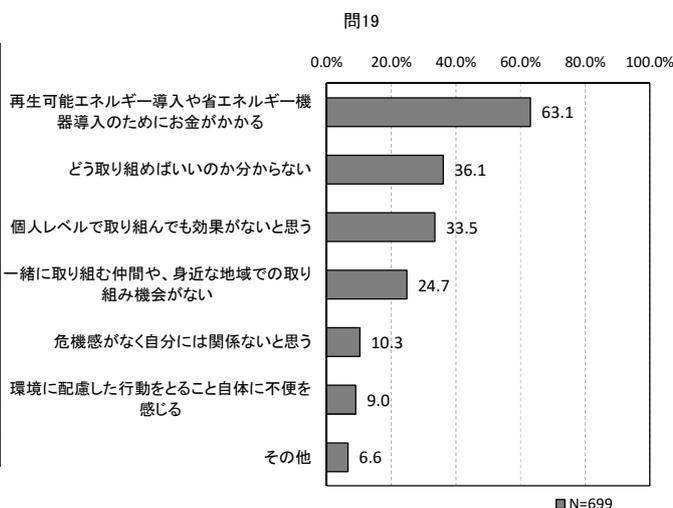


**問19. あなたにとって、地球温暖化対策のための行動を実践しにくい原因として考えられるものはどれですか。(3つまで○)**

地球温暖化対策を実行しにくい原因について、「再生可能エネルギー導入や省エネルギー機器導入のためにお金がかかる」が最も高く 63.1%、次いで「どう取り組めばいいのかわからない」が 36.1%、「個人レベルで取り組んでも効果がないと思う」が 33.5%となっています。

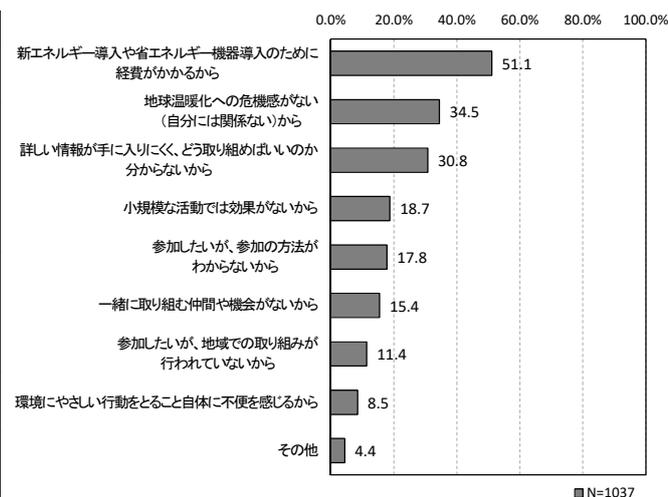
平成 22 年実施の市民アンケート調査結果と比較すると、機器導入の経費や取り組み方がわからないという項目は、どちらも上位の回答となっています。危機感がないという項目については、減少しています。

選択肢	回答数	割合
再生可能エネルギー導入や省エネルギー機器導入のためにお金がかかる	441	63.1
どう取り組めばいいのかわからない	252	36.1
個人レベルで取り組んでも効果がないと思う	234	33.5
一緒に取り組む仲間や、身近な地域での取り組み機会がない	173	24.7
危機感がなく自分には関係ないと思う	72	10.3
環境に配慮した行動をとること自体に不便を感じる	63	9.0
その他	46	6.6
計(回答人数)	699	



**(平成 22 年実施 市民アンケート調査結果)**

選択肢	回答数	割合
新エネルギー導入や省エネルギー機器導入のために経費がかかるから	530	51.1
地球温暖化への危機感がない(自分には関係ない)から	358	34.5
詳しい情報が手に入りにくく、どう取り組めばいいのかわからないから	319	30.8
小規模な活動では効果がないから	194	18.7
参加したいが、参加の方法がわからないから	185	17.8
一緒に取り組む仲間や機会がないから	160	15.4
参加したいが、地域での取り組みが行われていないから	118	11.4
環境にやさしい行動をとること自体に不便を感じるから	88	8.5
その他	46	4.4
計(回答人数)	1037	



## 2.2.6. 自由意見

問20. ご家庭で取り組まれている省エネアイデアや、地球温暖化対策を推進していく上で課題に感じる事など、ご自由にご記入ください。

### 【具体的な取り組み】 (135 件)

項目	主な意見
節水 (13 件)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 入浴時のシャワーの使用時間を減らす。</li> <li>● 風呂の利用後の水は洗濯や草木の水やり用に使う。</li> <li>● 食器をいらぬ紙で拭き、油等の汚れを取ってから、水洗いする。</li> </ul>
節電 (53 件)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 電気は使わない時はこまめに消す。</li> <li>● 蛍光灯器具はできるだけ短い時間にして使う。</li> <li>● 炊飯器で保温する時間を短くする。</li> <li>● 各自部屋で過ごさず、リビングをみんなで利用する。</li> <li>● 家族でお風呂に入る時間を合わせ、追い炊きせずに入る。</li> <li>● 待機電力がかからないように、スイッチの元を消す。</li> <li>● 暖房の利用は、エアコンや床下暖房を抑え、主にこたつを利用する。</li> <li>● 冬場は着込むことで暖房の利用を控える。</li> <li>● 電力プランを切り替え、日々毎日の電気使用量を確認する。また対前月、対前年同月を確認し、省エネの意識付けを図る。</li> </ul>
省エネ製品 (10 件)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 車を購入するときに、排ガス規制で優れた商品を選ぶ。</li> <li>● 家電を買い替えるタイミングが来たら、なるべく省エネ家電を購入する。</li> <li>● 家電購入時はエコ表示を確認する。</li> </ul>
交通 (9 件)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 車はアイドリングをなくす。</li> <li>● なるべく徒歩、自転車で移動する。</li> <li>● 必要がなくなれば車を手放す。</li> </ul>
省資源 (32 件)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 家庭から出すごみを最小限に出すように心がける。</li> <li>● 食べ物を捨てないように心がける。</li> <li>● できるだけビニール袋やプラスチックカップを使わず、必要のないものを購入しないよう心がける。</li> <li>● エコバッグを持参する。</li> <li>● ペットボトルはできるだけ買わず、水筒を使う。</li> </ul>
断熱 (9 件)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 窓を二重サッシにする。</li> <li>● 窓に断熱フィルムを貼る。</li> <li>● ゴーヤや朝顔等のつる性植物でグリーンカーテンにする。</li> </ul>
その他 (9 件)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「環境」の為には古いものを大事に使うことは良いと思うが、「地球温暖化」という点では新しいものの方が良い。</li> <li>● 「使わない」ではなく「極力少なく・低く使う」。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>こまめに節電することやリサイクル、リユース等は、子供にもしっかり伝え、実践しているところを見せるようにしている。</li> <li>ガス、水道、電気は料金に直結しているので節約しやすい。</li> </ul>
--	---

【行政に求めること】(80件)

項目	主な意見
市民意識の向上 (14件)	<ul style="list-style-type: none"> <li>市がもっと積極的に取り組んで市民の意識を上げる必要がある。</li> <li>国民、市民が理解できるように、国、地方自治体が温暖化対策の目標数値を明確にし、計画を立て実施し、検証を行うことが基本だと思う。</li> <li>地域や自治会等、最も少人数なところから意識を高める話し合いの場(集会所等)があれば、地球温暖化に対する意識が均一的なレベルに達してより効果が上がるように思う。</li> <li>何よりも個々人の意識の低さが、全体的な地球温暖化対策の推進を感じにくくさせていると思う。Society5.0やSDGsなど、経済的発展と社会課題の解決を両立し、地球規模での発展を目指していくコンセプトや取り組みを一人一人が主体的に知り、実践していく以外にできることはないと思う。</li> <li>小さな子供さんから年寄りまで、わかりやすい取り組みをお願いしたい。</li> <li>各個人で取り組めることは以前から取り組んでおり、これからは地域ぐるみで何か目標を決めて、取り組む必要性を感じる。</li> </ul>
意識向上に向けて 【情報発信】 (15件)	<ul style="list-style-type: none"> <li>市の広報などで意識改革を強く呼びかけてほしい。</li> <li>省エネに優れた商品リストなどがあれば、省エネへの動機づけになるように思う。</li> <li>最近企業なども地球温暖化対策を実施していると聞いたが、そのことがもっと広まるとよいと思う。</li> <li>よく再生可能エネルギーといわれているが、どのようなメリット・デメリットがあるか知らない人がほとんどと思われるので、そのような情報があれば良いと思う。</li> <li>具体的に市レベルでの取り組みを市民に示してほしい。</li> <li>個人レベルでも皆が取り組めばどれだけ成果があるかをもっとPRすれば行動が変わるかもしれない。</li> <li>ゴミの分別、リサイクルされたゴミがどうなっていくのかなど、図表で駅等に貼ってあれば取り組む人も増えそう。</li> </ul>
意識向上に向けて 【効果の実感・実益】 (12件)	<ul style="list-style-type: none"> <li>市町村内でクリーンキャンペーン等をして、参加した人には飲食店で使うことのできるクーポン券をお渡しするなどのキャンペーンを実施するのも一つの案なのかなと思う。</li> <li>リサイクルや省エネ活動がどのくらい効果があるのかわかりにくいいため、取り組みづらい。</li> <li>個人レベルでどのくらい貢献できるか目に見えるようになれば積極的にやろうと思う。</li> <li>一人ひとりが高意識を持てるような、情報、ビジュアル化したデータなどがあればモチベーションも高まるのかもしれない。</li> </ul>
意識向上に向けて 【ごみ問題】 (8件)	<ul style="list-style-type: none"> <li>たばこのポイ捨てをしている人が未だにいるので何とかしてほしい。</li> <li>ゴミ袋の指定もなく、ゴミの削減に力を入れていないのか疑問を感じる。もっと力を入れて取り組んでほしい。</li> <li>ごみ問題について、まずは企業が動かなければ難しいと思う。高槻市内の中小企業(大企業)に対して助成金を出して取り組むなど大きな対策をしないと変化は少ないだろう。リサイクルも有料で引き取ってくれるなどすると回収率も変わると思う。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>他市から越してきたが、特にレジ袋の対応の違いに複雑な気持ちになる。</li> </ul>
経費・再エネ導入 (11件)	<ul style="list-style-type: none"> <li>太陽光エネルギー設備や家庭用蓄電池をシェアで購入したり、サブスク制にするとよい。</li> <li>省エネ機器導入のための補助金制度もあればと思う。</li> <li>機器や設備がもっと手軽に安価に導入できれば色々試してみたい。</li> </ul>
交通・エネルギー (7件)	<ul style="list-style-type: none"> <li>公用車、市バスの電気自動車導入。</li> <li>国家として新エネルギー開発を積極的に推進すべきと思う。</li> <li>森林を有効活用し、バイオマスエネルギー発電に本格的に取り組むことによって、環境問題に寄与することができるのではないかとと思う。</li> </ul>
アンケート (4件)	<ul style="list-style-type: none"> <li>このアンケートはHPだけでなく誰でもが読める広報誌にも載せてほしい。</li> <li>アンケート中のコラム以外にも日常生活で活かせる省エネがあれば教えてほしい。</li> <li>地球環境のエコのアンケートを実施しているのに、アンケート用紙に別に unnecessary ホッチキスが止めてあった。エコじゃないし、経費節減になっていないと思う。</li> </ul>
その他 (9件)	<ul style="list-style-type: none"> <li>国(世界中)中で、推進していく必要性を感じている。</li> <li>行政、個人が協力して町の緑化運動に努めてはどうか。</li> <li>高槻市の行政は市の美化、温暖化その他の取り組みにおいて評価できる。</li> <li>「たかつきDAYS」を活用して市民に好事例等、掲載して全国に「高槻モデル」のようなものを作ってみてはどうか。</li> </ul>

【取り組むために重要なこと】(23件)

主な意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>各個人が少しでも省エネ活動を行うことにより、少しの積み重ねが大きくなっていくものと思う。</li> <li>個々で取り組むことが評価されることが必要なのではないかとと思う。</li> <li>社会全体で省エネに自然に取り組めるような意識改革が必要だと思う。</li> <li>まず知り、知識を深める。そして理解して行動することが大切である。</li> <li>やれることから少しずつやっていくことが大切だと思う。</li> <li>意識、認識をさらに高めることが必要だとは思う。そのうえで、実践への課題が認識できれば、次の段階があると思える。</li> <li>深刻な課題は、私たちが「個人レベルで取り組んでも効果がない」と思ってしまうことだと思う。一人ひとりの取り組みの大切さを伝えて、地域レベルで対策を行うことが大切だと思う。「周りの人が当たり前に対策しているなら自分も対策しよう」という考えが生まれることが重要だと思う。どのように多くの人々に行動を起こさせるか、危機感を感じてもらえるかに焦点を当てる必要があると思う。</li> </ul>

【これからの行動・思い】（18件）

主な意見	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>太陽光発電やエネファームなどを導入したいとは思ったが、どうしても高額に感じるため、まずは身近な緑化活動や、出来るだけごみを出さないように工夫することなどが実際の行動になっていくと思う。</li> <li>まだまだ家庭内でできることはあると思うので、ぜひ積極的な情報啓蒙等望んでいきたいと同時に自分も意識を高めて行動していきたい。</li> <li>まずは個人、家庭レベルで話し合いを始めることで、大きな輪として広がっていくことを願う。</li> <li>小さなことでも一人一人が取り組めば、大きな事につながると信じ、これからも頑張りたいと思う。</li> <li>自治会、市、その他で参加しやすい取り組みやイベントがあれば参加したい。</li> <li>家庭での節約はとても有効だと思うので、もう少し子供たちにも実践させるよう声掛け等行うようしたい。</li> <li>自分の行動が他に与える影響なども考えながら自分にできることをしていきたいと思う。</li> </ul>

【疑問・不安】（7件）

主な意見	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>省エネ商品を買いたいと思うが、今あるものを捨ててまで買うことの正当性はわからない。</li> <li>現在、省資源、ゴミ分別くらいしか実施していないように思えるが、このままでよいのか不安。</li> <li>確実に雪が減り、南極や氷河の氷が融けているとは情報として入ってきているが、実際にはどんなことをしていったらどれほど効果があるのかよくわからない。</li> <li>導入して半年もたっていないが、エネファームの価格に対して、その効果が実感できずにいる。</li> <li>温暖化対策に取り組むことで熱中症などの健康被害の方が心配。</li> </ul>

【現状・課題】（41件）

項目	主な意見
個々の課題 （5件）	<ul style="list-style-type: none"> <li>省エネが大切という事はわかっているのだけど、どんな事をどのくらい意識したら良いのかいまいちわからない。普通に生活していると便利な方を優先してしまうので、なかなか常に意識することができない。</li> <li>情報があふれすぎて、具体的に家庭で何をすればよいのかがいまいちわかりにくい。</li> </ul>
社会的な課題 （16件）	<ul style="list-style-type: none"> <li>エネルギー多消費の社会構造は簡単には変えられない。</li> <li>最近は緑化に対する考え方がなくなっていると思う。</li> <li>自分も含めて誰か任せで自分から行動を起こすことができない人が多いように感じる。</li> <li>あまりにも物のありふれた世の中、物を粗末にしないよう考える必要があると思う。</li> <li>住居がへき地で高齢化、少人数の環境で、省エネ、温暖化対策に取り組む意欲がなくなっている。</li> </ul>
設備導入の課題 （10件）	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域によって都市ガスやプロパンガスがあり、エネファームにするのも難しいので、ベースを整えることが課題に思う。</li> <li>緑のカーテン(ゴーヤ)等のベランダにつける事ができれば良いと思うが、住宅事情により、無理な所が多いように思う。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>蓄電池などはまだまだ高価で、もっと手が出る値段・価値になれば災害時にも役立つ良いものだと思うので、今後はそれを待ちたい。</li> <li>産業機械(建設、農業、フォークリフト等)のEV化を急ぐ必要がある。</li> <li>地球温暖化対策を意識はしているものの、身近な節電やリサイクルなどに努めているくらいで、もっと本格的に取り組もうと思えば太陽光発電や電気自動車への買い替えなどほしい。だが割高なため意識しつつも導入できていないのが現状である。</li> <li>省エネ器具は、経済的に無理なものも多い。</li> </ul>
省資源についての課題 (5件)	<ul style="list-style-type: none"> <li>スーパー等の過剰包装は問題に思う。</li> <li>家から出るゴミのほとんどがナイロン袋のゴミが多く、このゴミは商品を購入するのに本当に必要なのか、このゴミ(ナイロン、ビニール)を減らすにはどういう売り方がいいのかと考えた。</li> </ul>
その他 (5件)	<ul style="list-style-type: none"> <li>クレマーが多く、トライ&amp;エラーが繰り返しにくい。</li> <li>地球温暖化に起因する異常気象や天変地異に対して有効な方法・手段の解明が不十分であり、人間は無力に思う。</li> <li>地球温暖化とは思っておらず、むしろ寒冷化による気候異変が問題に思う。</li> <li>切り開いて人のための場所を作ってきたのが、すべて人を苦しめる原因になっていると思う。</li> <li>高槻でも昔に比べると山を切り開いての宅地造成が多く行われているので、空家を有効に使っていくことの方が大事なのではないか</li> </ul>

**(参考) 地球温暖化問題の取り組みに対する現在の自己評価と今後の姿勢の関係**

「問 10. あなたは、地球温暖化問題に対して、どの程度、熱心に取り組んでいると自己評価していますか。」の設問において、「非常に熱心に取り組んでいる」、「熱心に取り組んでいる」を「熱心」、「やや熱心に取り組んでいる」、「少しだけ熱心に取り組んでいる」を「ふつう」としてクロス集計を行いました。

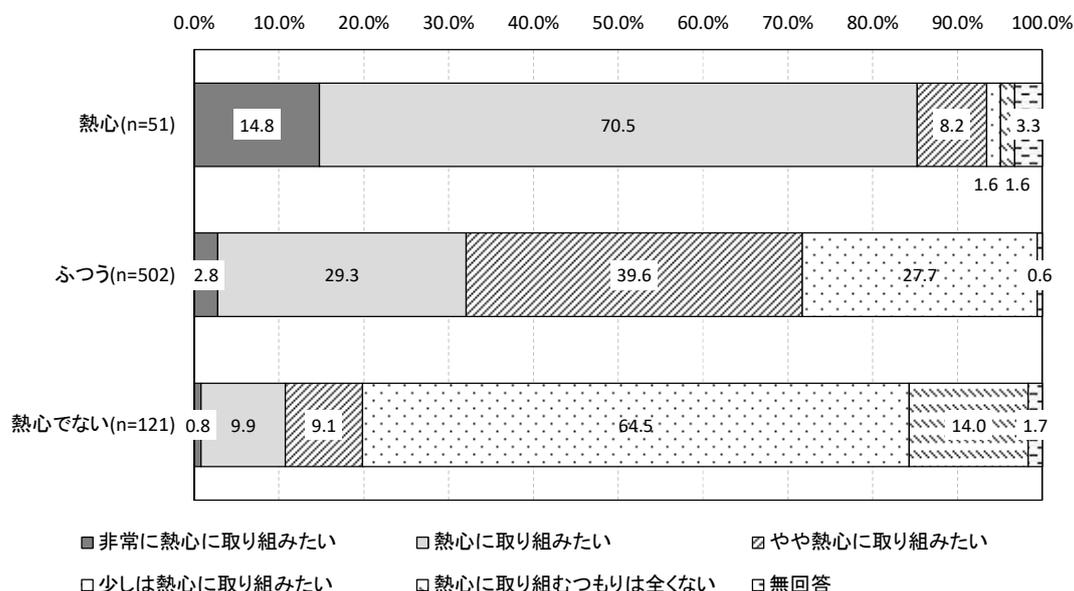
**問 17. 今後、あなたは地球温暖化問題に対して、どの程度、熱心に取り組みたいと考えていますか。**

地球温暖化問題に対する取り組みを「熱心」と自己評価している人では、「熱心に取り組みたい」の回答が 70.5%と最も多く、「非常に熱心に取り組みたい」の回答は 14.8%となっています。

「ふつう」と自己評価している人では、「やや熱心に取り組みたい」の回答が 39.6%で最も多く、次いで「熱心に取り組みたい」が 29.3%、「少しは熱心に取り組みたい」が 27.7%となっています。

「熱心でない」と自己評価している人では、「少しは熱心に取り組みたい」の回答が 64.5%と最も多く、次いで「熱心に取り組むつもりは全くない」が 14.0%となっています。

	非常に熱心に取り組みたい		熱心に取り組みたい		やや熱心に取り組みたい		少しは熱心に取り組みたい		熱心に取り組むつもりは全くない		無回答	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
熱心 (n=61)	9	14.8	43	70.5	5	8.2	1	1.6	1	1.6	2	3.3
ふつう (n=502)	14	2.8	147	29.3	199	39.6	139	27.7	0	0.0	3	0.6
熱心でない (n=121)	1	0.8	12	9.9	11	9.1	78	64.5	17	14.0	2	1.7

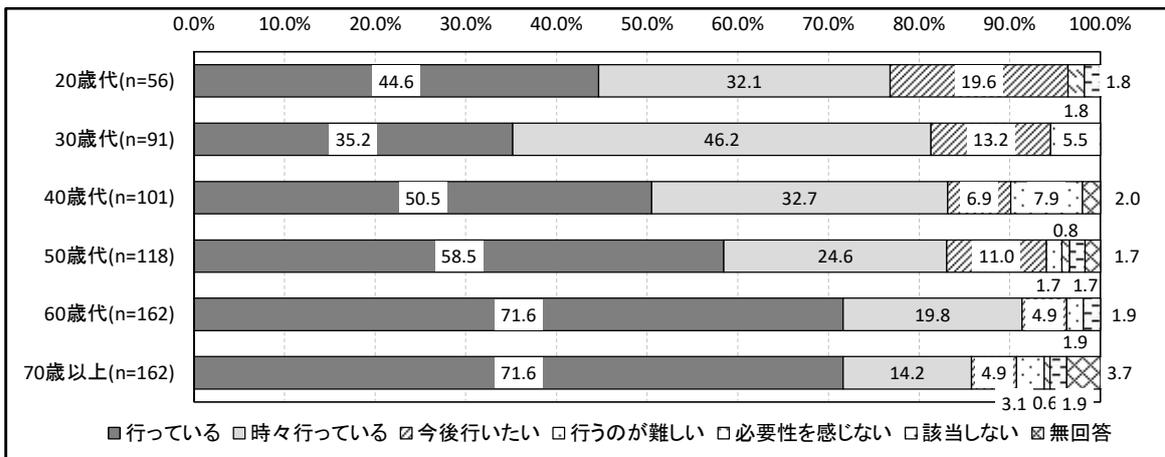


(参考) その他クロス集計結果

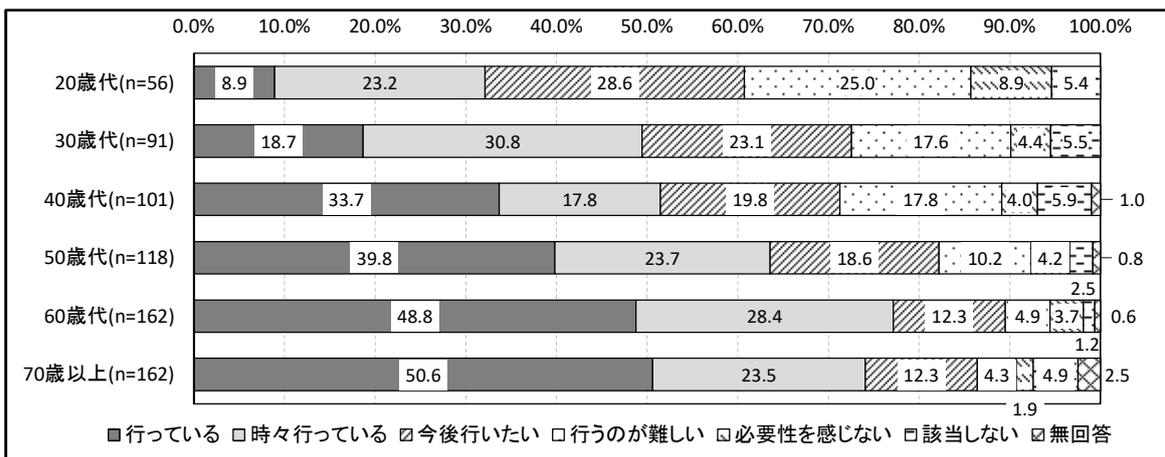
問2. あなたの年齢はいくつですか。  
 問7. あなたは地球温暖化防止に関して、日常的に次のことを行っていますか。  
 のクロス集計

年齢との関係を見ると、特に給湯や電気製品に関する項目では、年齢が上がるにつれて省エネ行動を実行している割合が高くなる傾向にあります。

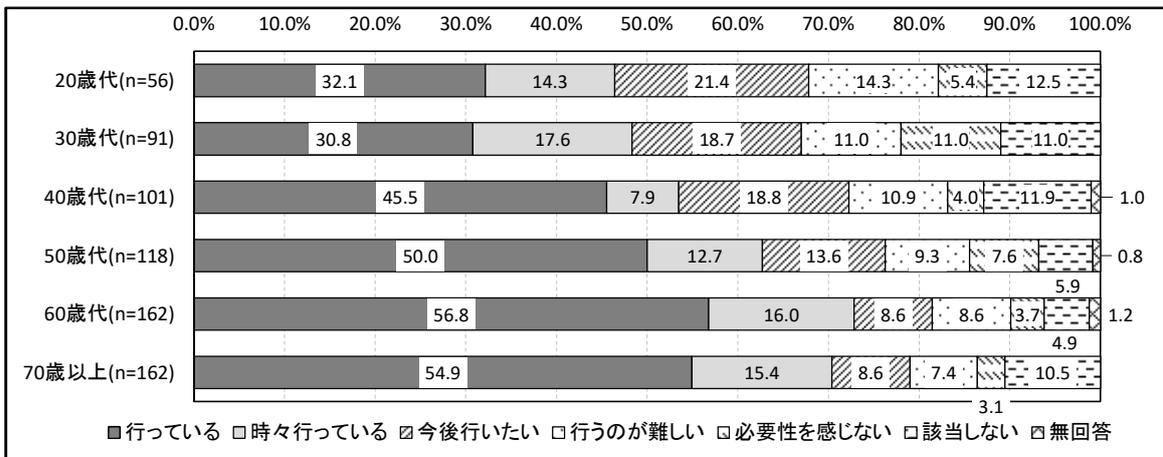
ア. シャワーを使うときは、不必要に流したままにしない



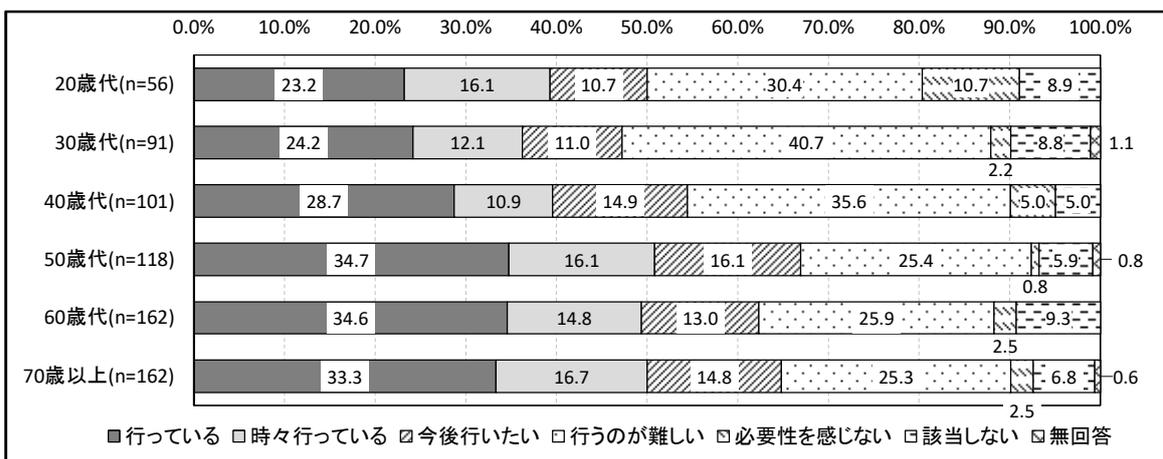
イ. 給湯器を利用するときは、設定温度をなるべく低くする



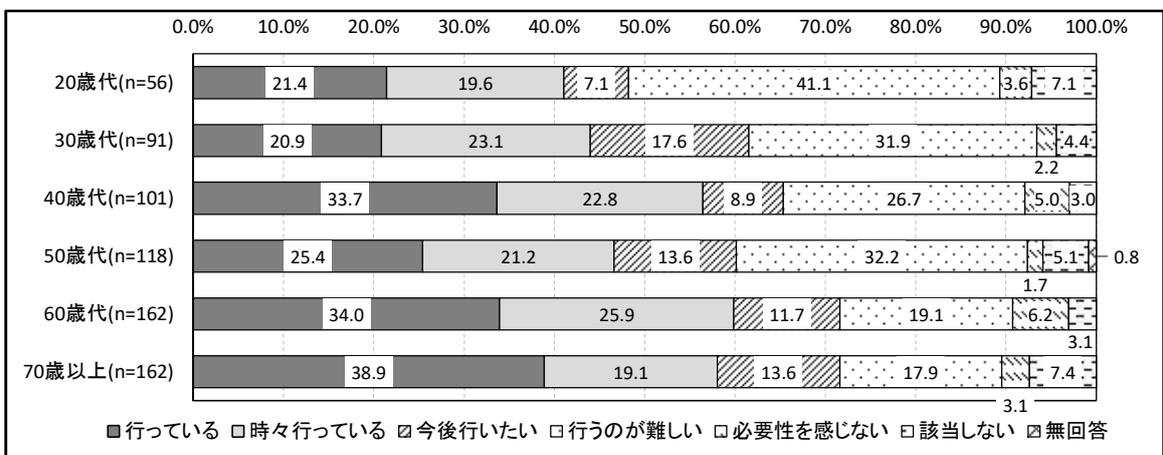
ウ. 給湯器を利用しないときは、コントローラー（リモコン）の電源を切る



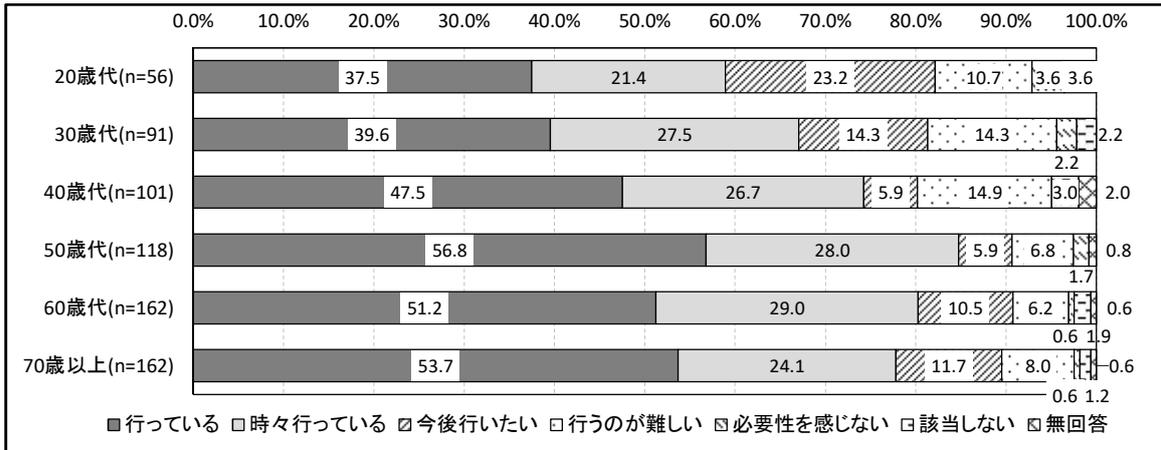
カ. 暖房の設定温度を、20℃以下にしている



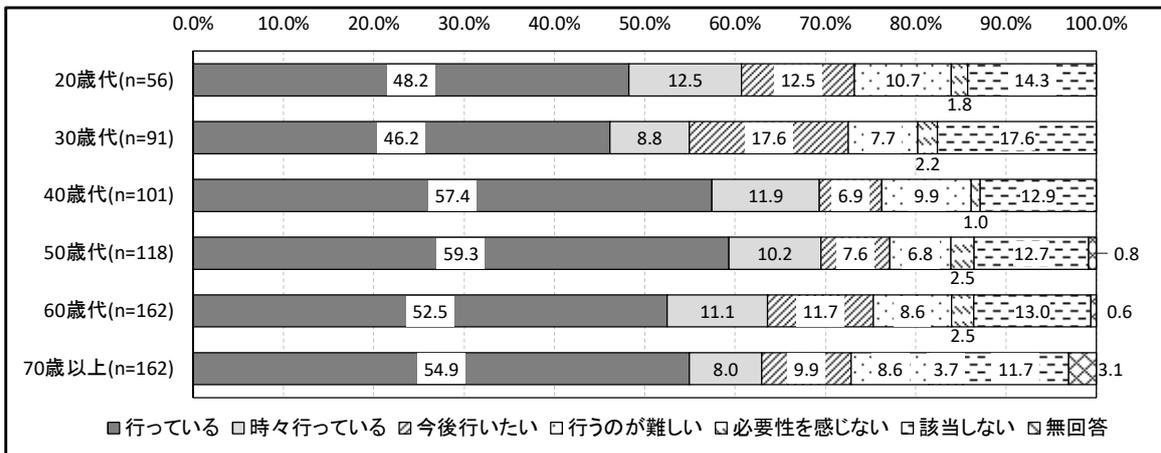
キ. 冷房の設定温度を、28℃以上にしている



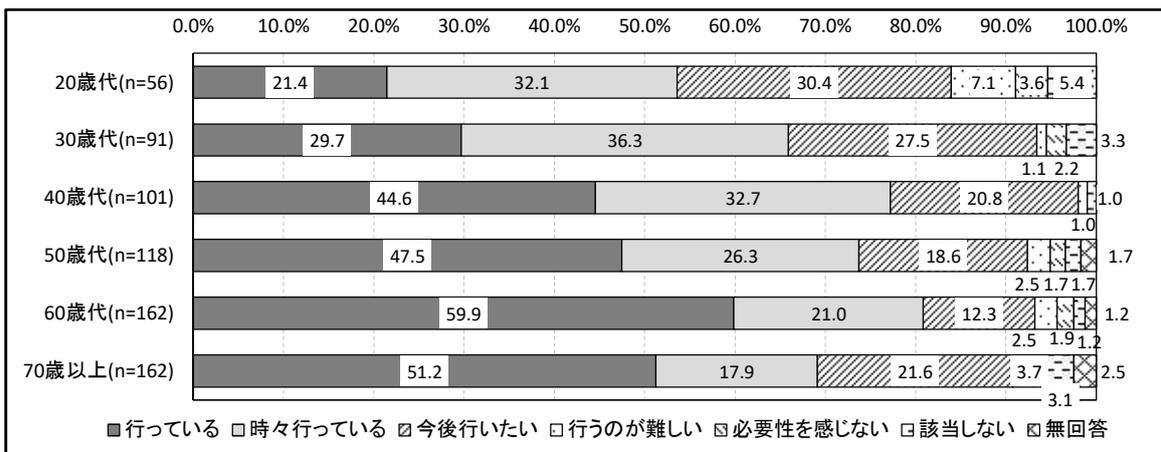
ク. 冷蔵庫に物をつめこみ過ぎないようにしている



ケ. トイレの暖房便座機能を冬以外は使用しない



コ. 家電製品は、省エネ効果の高い製品を選ぶ



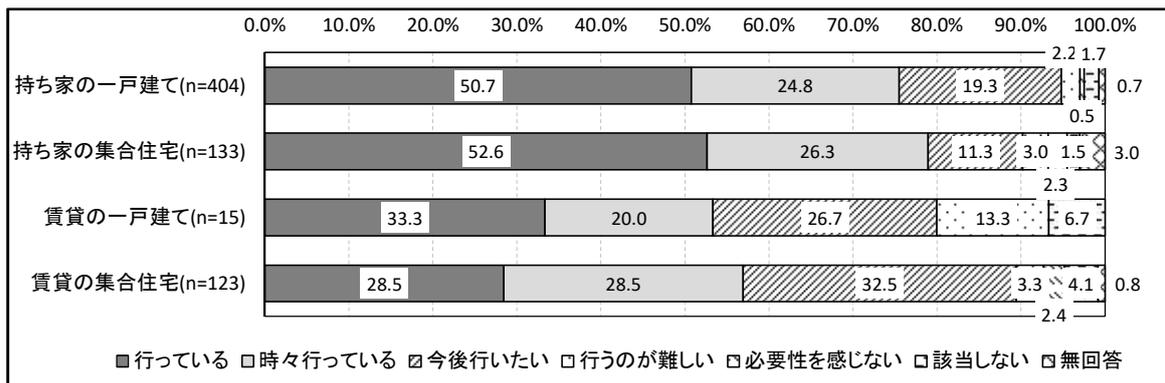
問4. お住まいは、次のうちどれにあたりますか。

問7. あなたは地球温暖化防止に関して、日常的に次のことを行っていますか。

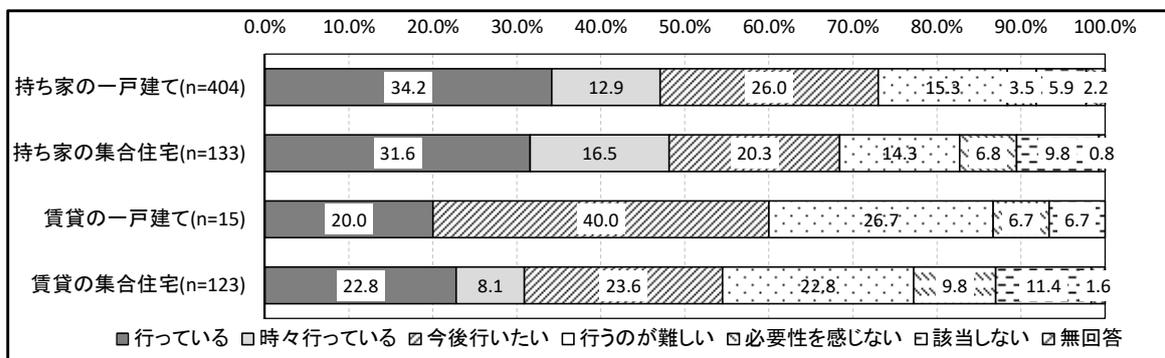
のクロス集計

住宅の種類との関係を見ると、省エネ効果の高い電気製品の選択や窓の断熱は、持ち家に居住している市民が実行している割合が高くなる傾向にあります。

コ. 家電製品は、省エネ効果の高い製品を選ぶ



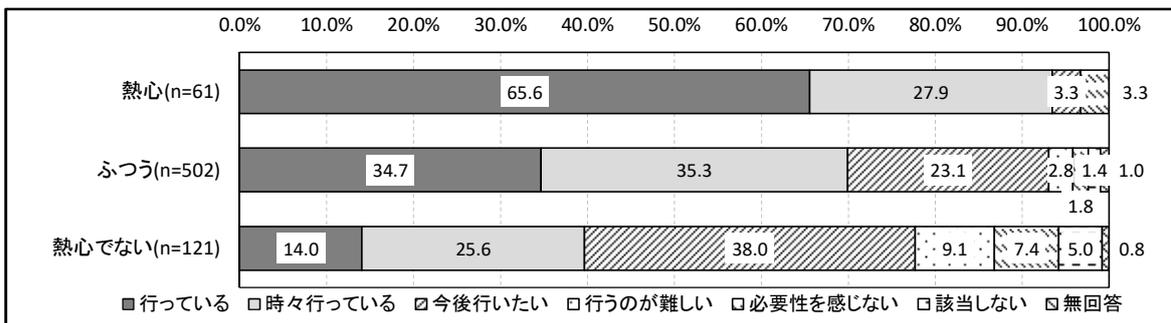
タ. 窓の断熱対策を行っている



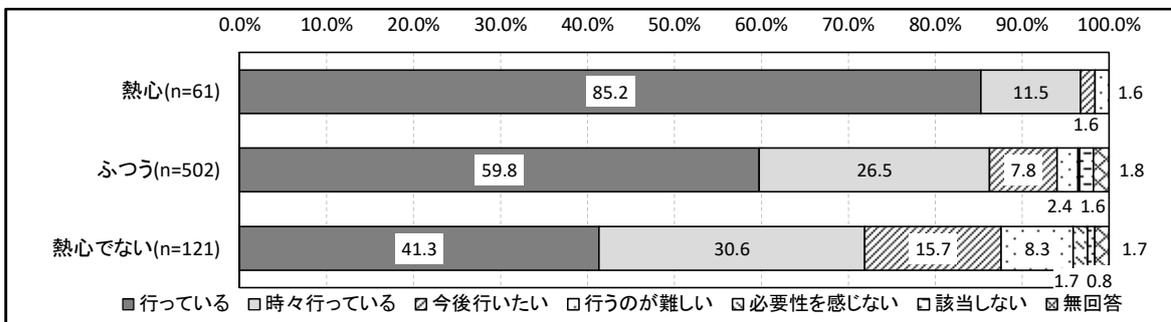
問 7. あなたは地球温暖化防止に関して、日常的に次のことを行っていますか。  
 問 10. あなたは地球温暖化問題に対して、どの程度、熱心に取り組んでいると自己評価していますか。  
 のクロス集計

地球温暖化問題の取り組み状況の自己評価が高い人と低い人とでは、習慣的に実行している割合に約 20～30%程度の差があります。特に電気・ガスの利用明細の確認については 51.6%の差があります。

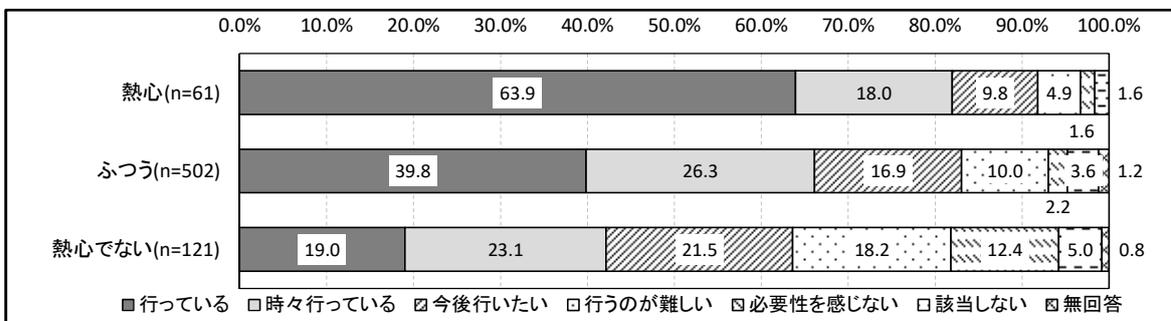
チ. 電気・ガスの利用明細を確認し、省エネ意識を高めている



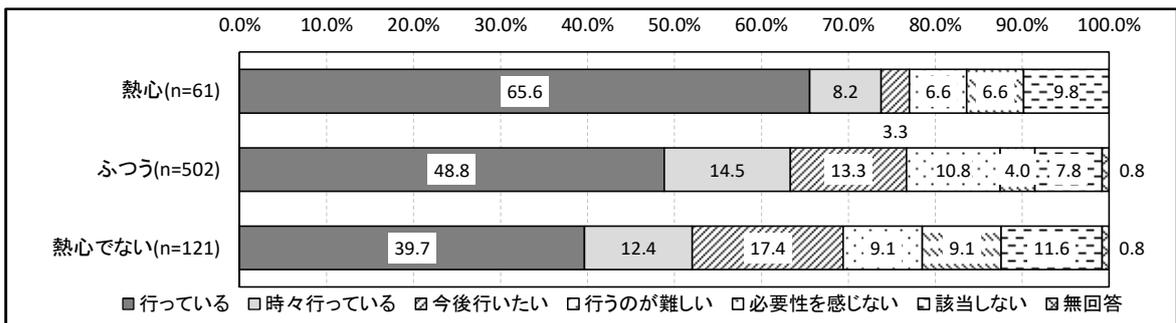
ア. シャワーを使うときは、不必要に流したままにしない



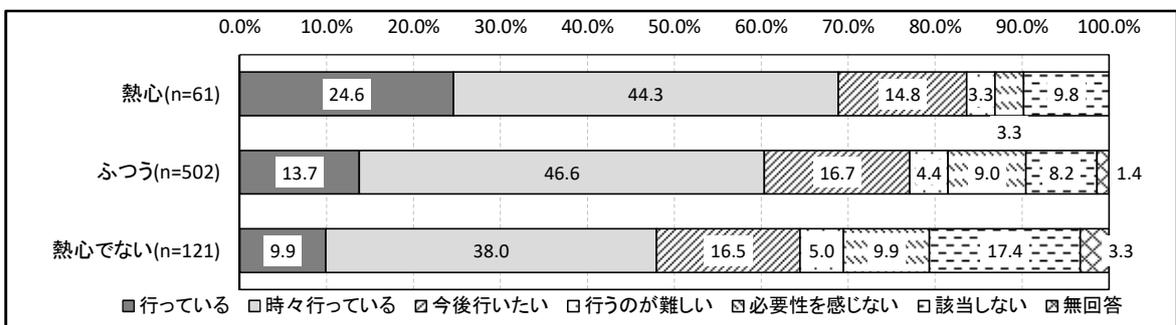
イ. 給湯器を利用するときは、設定温度をなるべく低くする



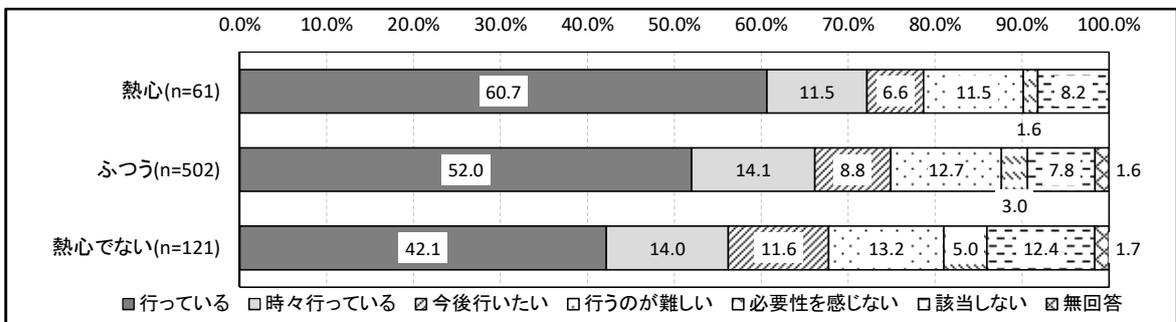
ウ. 給湯器を利用しないときは、コントローラー（リモコン）の電源を切る



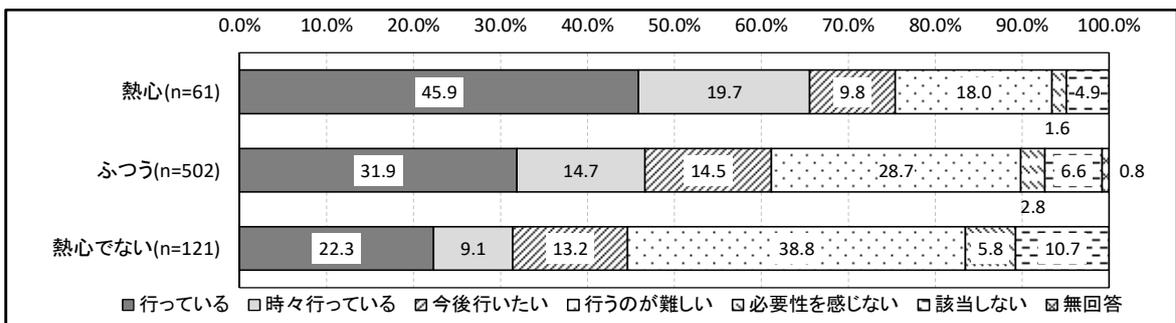
エ. 調理を行うときは、電子レンジで下ごしらえを行う



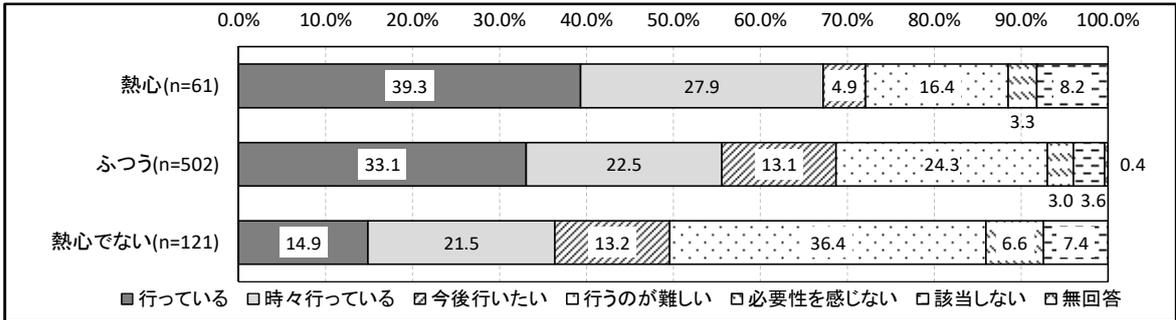
オ. 炊飯器の保温機能を極力使用しない



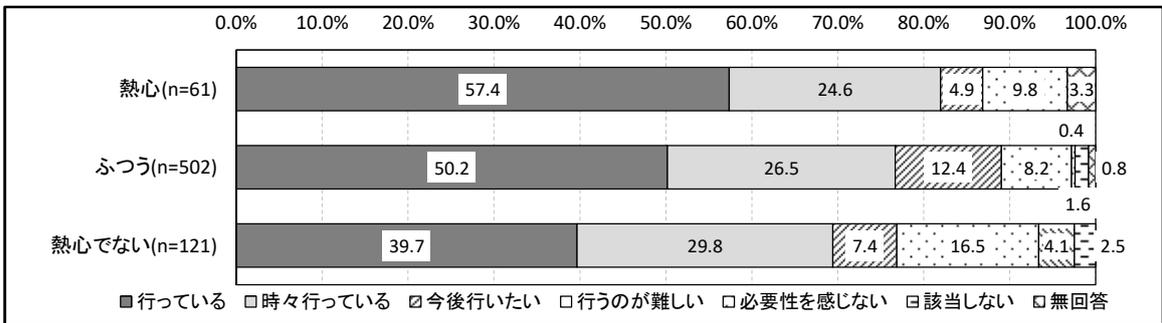
カ. 暖房の設定温度を、20℃以下にしている



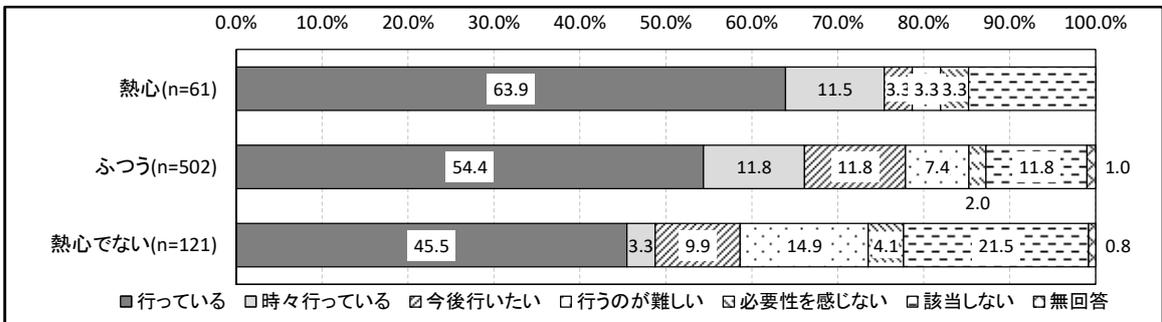
キ. 冷房の設定温度を、28℃以上になっている



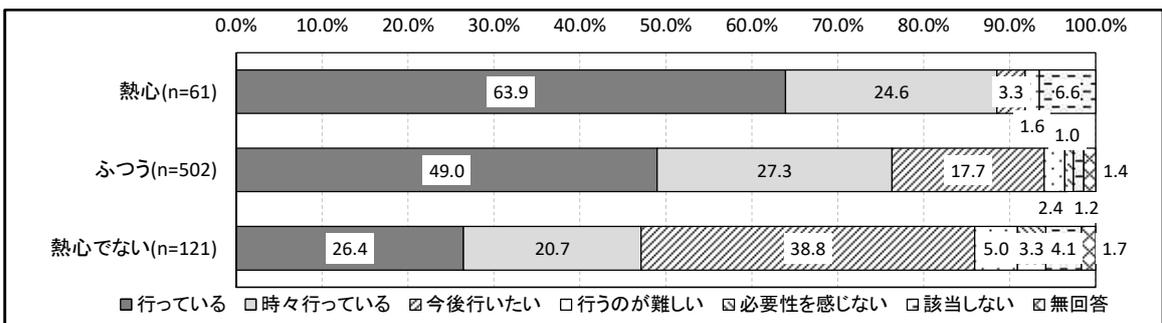
ク. 冷蔵庫に物をつめこみ過ぎないようにしている



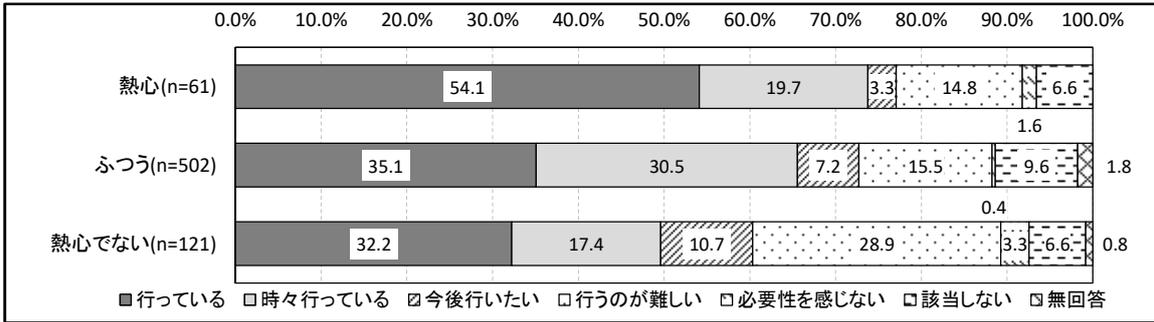
ケ. トイレの暖房便座機能を冬以外は使用しない



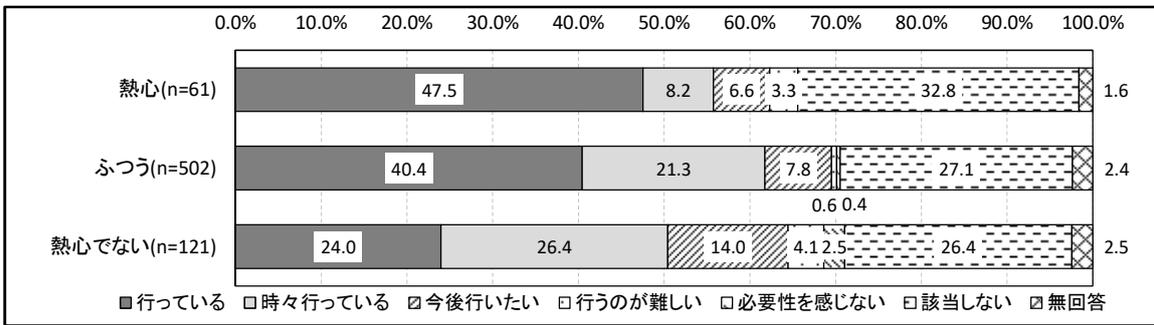
コ. 家電製品は、省エネ効果の高い製品を選ぶ



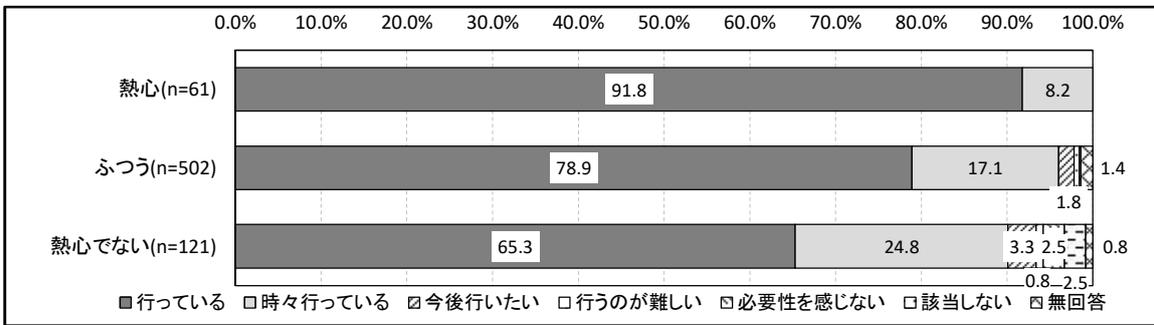
サ. 自動車の利用を控え、バス・電車・自転車を利用する



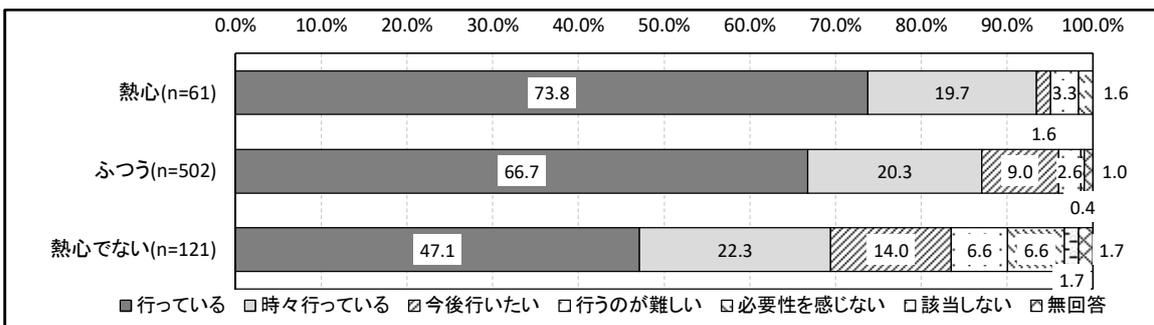
シ. 自動車をゆっくり加速させるなど、燃費の良い運転を心がけている



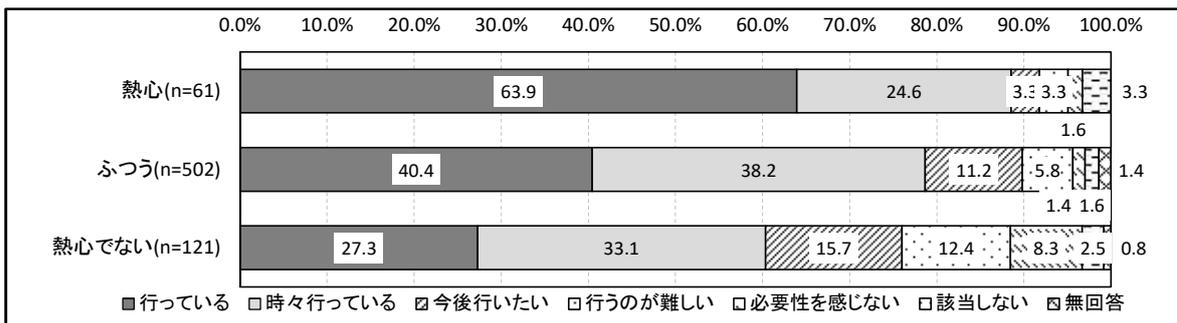
ス. 詰め替え可能な商品（シャンプー）などの環境に配慮した商品を購入する



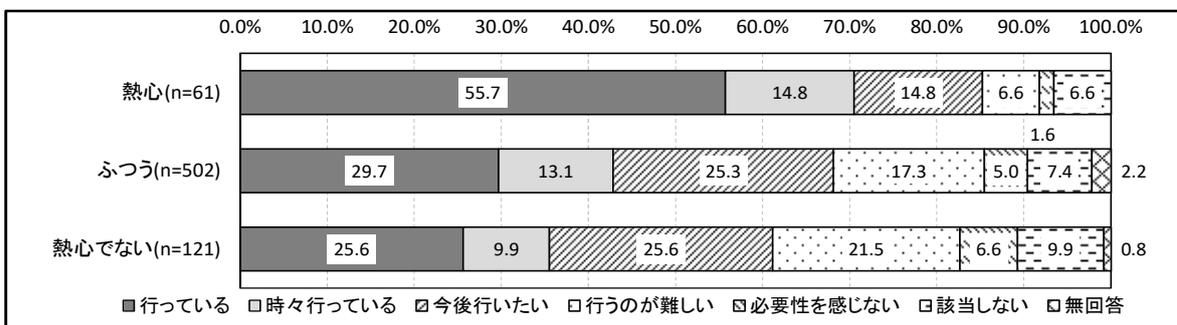
セ. ゴミを捨てるときは、ペットボトルや食品トレー、雑がみなどの種類毎に分別する



ソ. マイボトルを持ち歩くなど、外出先でペットボトル飲料などを買わない



タ. 窓の断熱対策を行っている



問 4. お住まいは、次のうちどれにあたりますか。

問 8. 地球温暖化防止に役立つ再生可能エネルギー機器や省エネルギー設備について、ご自宅に導入されていますか。

のクロス集計

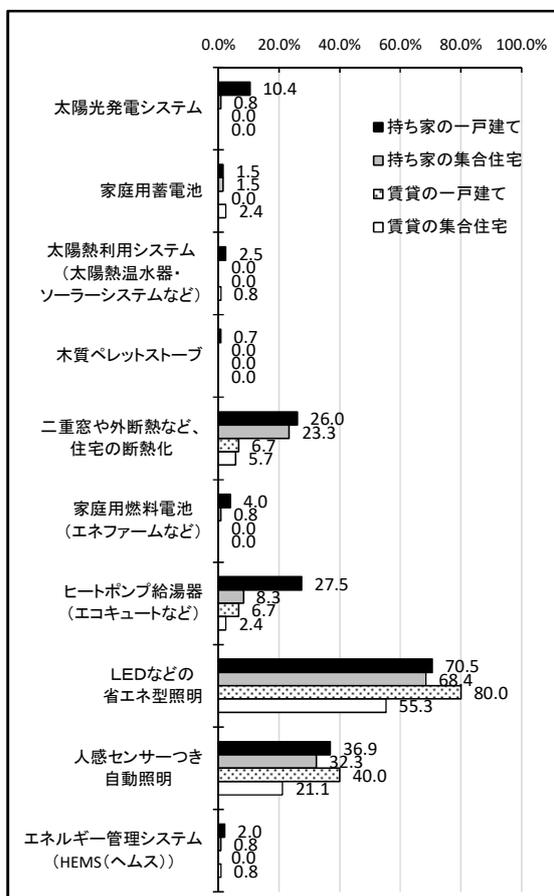
問 6. お住まいの建築時期はいつ頃ですか。

問 8. 地球温暖化防止に役立つ再生可能エネルギー機器や省エネルギー設備について、ご自宅に導入されていますか。

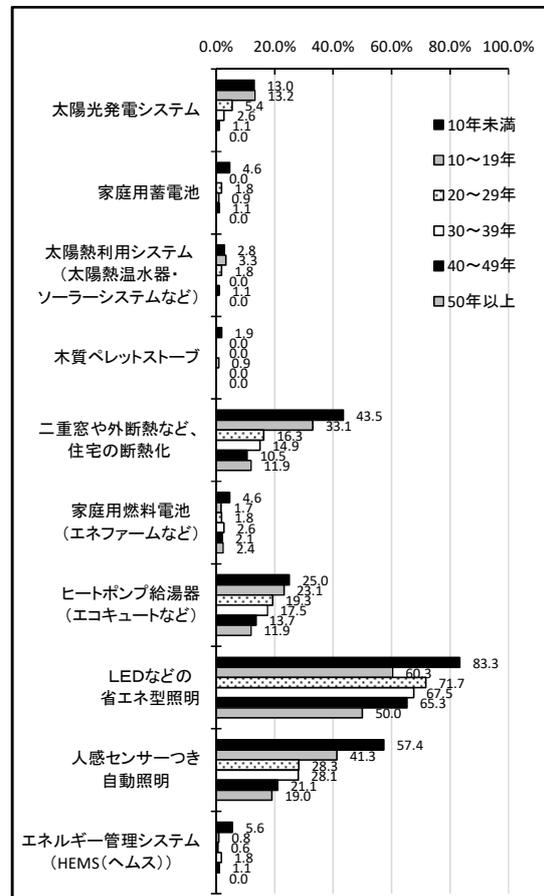
のクロス集計

各種機器の導入率は、持ち家や建築時期の浅い住宅で高くなる傾向があります。

各機器の導入率（所有形態）



各機器の導入率（建築時期）



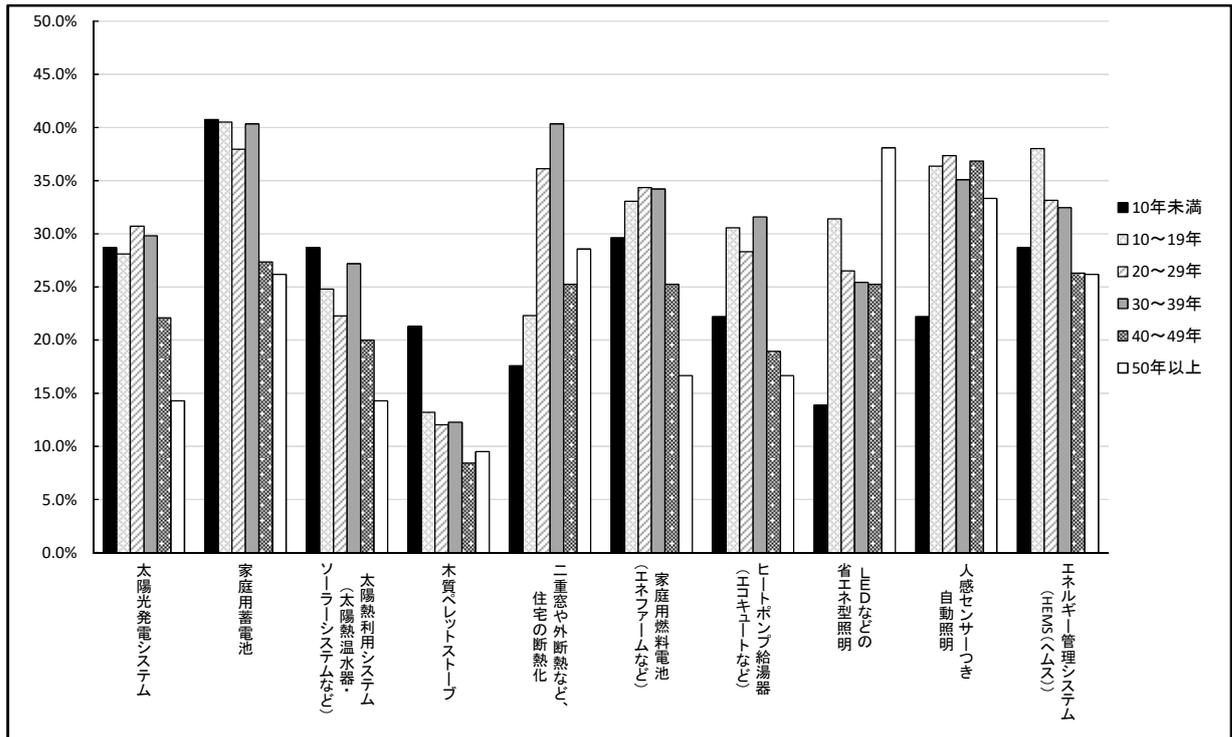
問 6. お住まいの建築時期はいつ頃ですか。

問 8. 地球温暖化防止に役立つ再生可能エネルギー機器や省エネルギー設備について、ご自宅に導入されていますか。

のクロス集計

導入意欲は、築浅または築年数 30 年～40 年程度の住宅で高い傾向があります。

「タイミングがあれば導入したい」、「安価になれば導入したい」と回答した人の割合



問 8. 地球温暖化防止に役立つ再生可能エネルギー機器や省エネルギー設備について、ご自宅に導入されていますか。

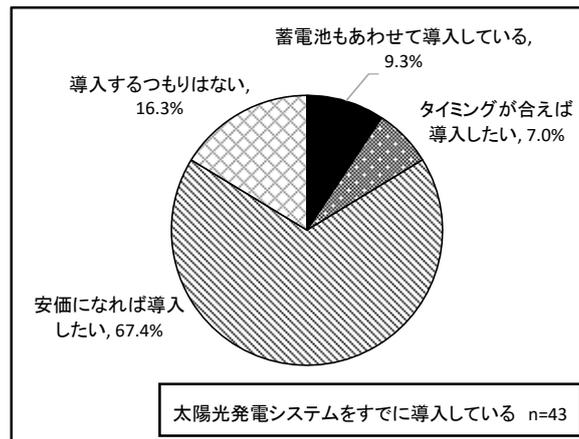
「ア 太陽光発電システム」で「すでに導入している」と回答した人

問 8. 地球温暖化防止に役立つ再生可能エネルギー機器や省エネルギー設備について、ご自宅に導入されていますか。

「イ 家庭用蓄電池」の導入状況

のクロス集計

太陽光発電システムを導入している人のうち、9%の世帯で蓄電池を設置しています。



問 13. あなたの世帯で、最も利用されている自動車の種類は次のうちどれですか。

で「自動車を保有している」と考えられる人

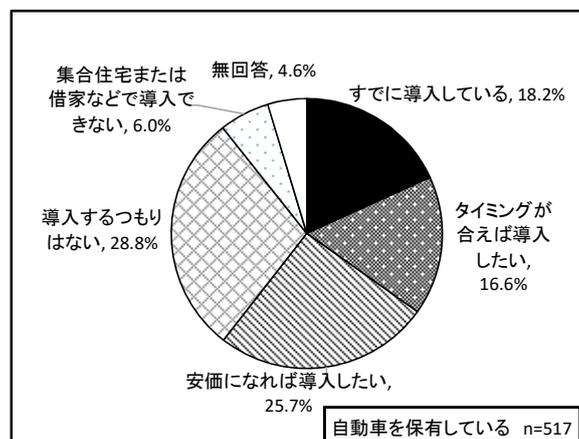
問 8. 地球温暖化防止に役立つ再生可能エネルギー機器や省エネルギー設備について、ご自宅に導入されていますか。

「サ ハイブリッド自動車・電気自動車などの環境性能の高い自動車」の導入状況

のクロス集計

75%程度の世帯で自動車を保有\*しており、そのうちの約半分はタイミングが合えば、あるいは安価になればエコカーを購入したいと回答しており、エコカー導入への意識は高いと考えられます。

※「問 13」の無回答を除いた回答数を、自動車の保有世帯としています。



**問2. あなたの年齢はいくつですか。**

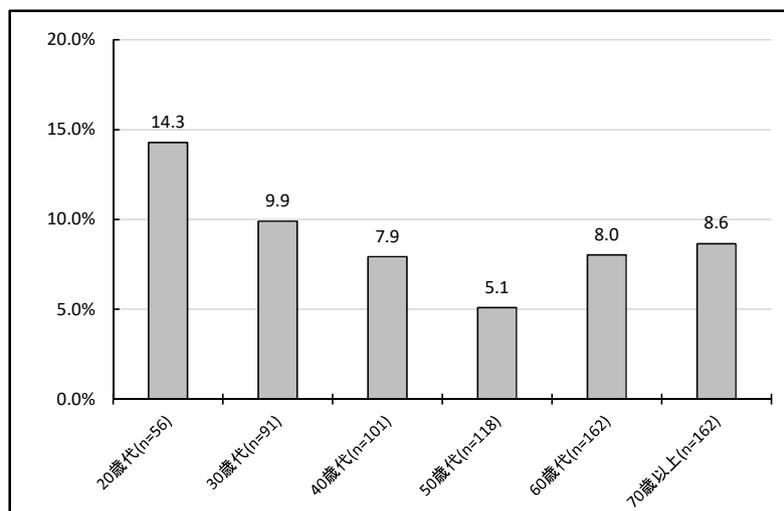
**問18. 地球温暖化対策や、地球温暖化に伴う被害を軽減するために、自らが取り組むべき事項について、特に必要だと思うものはどれですか。**

**のクロス集計**

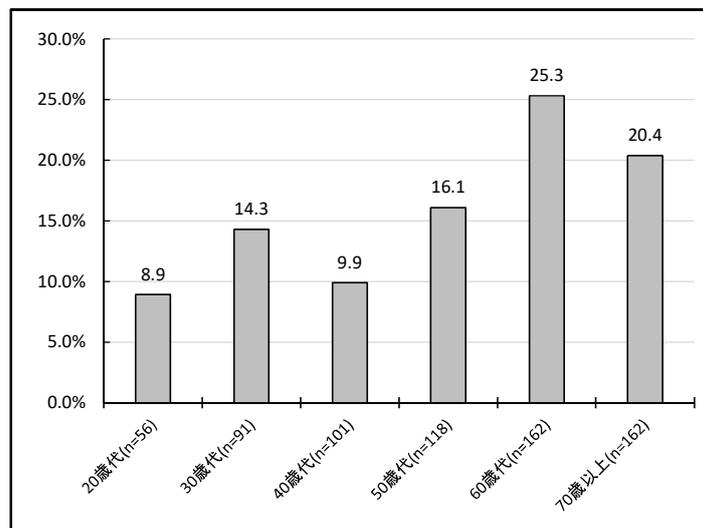
緑化活動や環境イベントなどの参加型の取り組みについては全体的な割合は低くなっていますが、20代の意識は他の年代よりも高くなっています。

年齢が上がるほど、自動車の利用を控え公共交通や自転車を利用することについて、自らが取り組むべきものとして意識しています。

自らが取り組むべき事項として「身近な緑化活動」と回答した人の割合



自らが取り組むべき事項として「自動車の利用を控え、公共交通機関や自転車の積極的な利用や徒歩での移動」と回答した人の割合



問 2. あなたの年齢はいくつですか。

問 19. あなたにとって、地球温暖化対策のための行動を実践しにくい原因として考えられるものはどれですか。

のクロス集計

問 10. あなたは地球温暖化問題に対して、どの程度、熱心に取り組んでいると自己評価していますか。

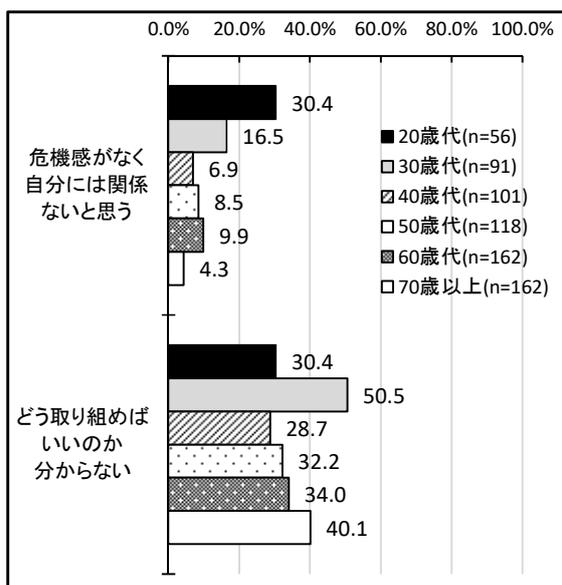
問 19. あなたにとって、地球温暖化対策のための行動を実践しにくい原因として考えられるものはどれですか。

のクロス集計

取り組み方がわからないとする割合は、30代での割合が高いほか、全体的に年齢が上がるほど高くなる傾向があります。また、地球温暖化問題に対する自己評価が低い人で高くなっています。

「危機感がなく自分には関係ないと思う」の割合は、20代と地球温暖化問題に対する自己評価が低い人で特に高くなっています。

実践しにくい原因（年齢別）



実践しにくい原因（熱心さ）

